

昭和51年度春夏作野菜・花き関係除草 剤(材), 生育調節剤(材)試験成績概要(1)

農林省野菜試験場 西 貞夫

標記の成績検討会は、去る12月8～10日の3日間、東京市ヶ谷の健保会館において行われた。3日間ともに昼間は珍らしい晴天で、暖房のききすぎた会場は満員、第1日の午前10時に始まった検討会は、第3日の午後4時半まで、順調に行われた。参集した人員は、試験場が例によって、北は北海道から南鹿児島に至る53場所・75人、申請者側は39社・52人の、計127人であった。

今回は、試験点数がきわめて多く、野菜除草剤が18作物で計49点、花き除草剤が2作物7点、生育調節剤(材)野菜が23点、花きが11点の盛況であった。これらの中には効果の確認試験(効果そのものおよび後作用の判定など)が何点か含まれているが、その結果、野菜の除草剤では17点(含実・継)、花きでは3点(含実・継)、生育調節剤では、野菜3点(含実・継)、花きで2点に、実用化判定が与えられた。

会議は、植調協会吉沢常務理事のあいさつ・除草剤利用状況の説明で始められ、戸荏会長は公務の為2日目の冒頭にあいさつされた。会長は、最近訪問されたブラジルでの見聞などを交じえて、野菜・花き関係除草剤の将来に期待されることの多いこと、協会が各試験担当場所の試験結果に頼る所大なる旨のあいさつをされた。

今回の検討会の中では二つの注目すべき事項があった。一つは、除草効果の著しい薬剤の後作用の点であって、かねて懸念されていたとお

り、二、三の薬剤が特定の後作物に対してばかりでなく(たとえば、イネ科雑草に除草効果大で、後作のイネ科作物に障害を与える例)輪作後作の野菜についても、生育阻害などのみられる事例が報告された。しかし詳細に内容を見ると、その多くは通常の耕起・整地を行うことで、回避可能である様に判断されるものであり、今後の耕種的対応の究明が重要であるとの結論に達した。他の一つは生育調節剤の評価についてであった。本検討会では毎回相当数の生育調節剤が取りあげられ、この数年急増(?)の傾向にあるが、その評価について必ずしも一致した見解が持たれていなかった。その原因は、そもそも評価の仕方について論議のかわされたことがなかったことにあるが、試験の申請者の側にあっても、試験依頼に当ってやや欲を張りすぎる傾向(失礼)があり、かえって損をしていた面もある。たとえば、ある薬剤が苗の発根を刺激し、発根数や伸長量を増加させる効果を持つとする場合、その様な効果の有無とその程度の評価が求められたのであれば、試験実施側もその範囲で検討を行うことになる。ところが多くの場合、申請書にはそのことが果実の多収や品質向上という実質的なメリットがあるということにまで及んでいることが多い。その様になると試験は育苗から最終の収穫の段階にまで及ぶことになり、多くの場合は、その様な効果はな

いという結果となり、薬剤自体の実用性はないとの判定が与えられる。収量や品質に関しては、栽培技術や管理の巧拙が大きく影響するし、しかも、育苗以後の取扱いは、その薬剤で処理された苗にふさわしいものが特に選定（もしあるとして）されるのではなく、従来の手法が適用されるのであるから、よし有効としてもその効果は栽培の過程で消去される可能性が大きいからである。今回はこの点について、相当立入った議論が行われ、結論的には、その薬剤の作用性の有無は、（この場合であれば）発根が促進あるいは刺激されたかどうかという点に限ってみ

ればよいのであって、それ以後については別の場面で評価されるべきものであるとの、一致した見解がたてられることになった。開花あるいは結実初期の薬剤処理が、最終生産物の品質に影響を及ぼす例は、昔実施の許るされていた“ナツミカンの亜硫酸処理による酸味低減”などにもあるので、すべての初期生育段階処理が、収量や品質に関係しないとは断言できないが、生育調節物質の作用性の評価については、従来とは異なる基準が明確に設定されるに至ったといっ

てよいであろう。

昭和 50 年度 春夏作野菜花き関係除草剤・生育調節剤（材）試験薬剤一覧ならびに判定表

I. 除 草 剤

作物名 〔作型・ 栽培法〕	薬 剤 名 ・ 種 類 名 ・ 商 品 名	剤型	有 効 成 分 および含有率	委託者名 （会社）	担 当 場 所	試験の種類；処理 方法；処理時期； 散布薬量/a	新継の別 今回判定	判 定 理 由 または内容
A 野菜								
1.野菜一般 〔春まき露 地直はん または移 植〕	(1)NP-48 (Na) ・ _____ ○ カルボ ジメト ン	水溶	2-(1-(N- アリルオキシア ミノ)-ブチリデ ン)-5,5-ジメ チル-4-メト キシカルボニル -シクロヘキサ ン-1,3-ジオ ンNa 塩 75%	日本曹達	野菜試験岡支 場，同久留米 支場。	基礎試験（イネ科 1年生雑草を対象 に作物生育期処理 剤として）；全面茎 葉；生育期，イネ 科雑草2～3葉期， 4～5葉期；7,10， 15g.	新 規 継	試験年次 不足．
〔春まき露 地直はん または移 植〕	(2)SL- 501 ・ _____ ○ _____	水溶	未 公 開 40%	石原産業	野菜試験岡支 場，同久留米 支場。	作用性試験（そ菜 に対する薬害と除 草効果，特にイネ 科雑草に対して）； 全面雑草茎葉；生 育期イネ科雑草発 生盛期（2～4葉 期）；15, 30, 45g	新 規 継	試験年次 不足．
〔春まき露 地直はん または移 植〕	(3)SL- 502 ・ _____ ○ _____	水溶	未 公 開 40%	石原産業	野菜試験岡支 場，同久留米 支場。	作用性試験（そ菜 に対する薬害と除 草効果，特にイネ 科雑草に対して）； 全面雑草茎葉；生 育期，イネ科雑草 発生盛期（2～4	新 規 継	試験年次 不足．

作物名 〔作型・栽培法〕	薬剤名 ・種類名 ・商品名	剤型	有効成分 および含有率	委託者名 (会社)	担当場所	試験の種類; 処理 方法; 処理時期; 散布薬量/a	新継の別 今回判定	判定理由 または内容
(野菜一般 のつづき)	SL-502 (つづき)					葉期); 15, 30, 45g.		
(春まき露 地直はん)	(4)TH-68 ・ ○	乳	未公開 化合物 A 24% B 12% 混合剤 36%	武田薬品 工業	野菜試験岡支 場, 同久留米 支場.	基礎試験 (1年生 雑草全般対象で適 用作物, 処理時期, 薬量の検討); 全面 またはうね間株間 土壌; は種後または 定植後雑草発芽 前~発芽始期; 30, 40, 50 ml.	新規 継	試験年次 不足.
(春まき露 地直はん または移植)	(5)TH-69 ・ ○	水和	未公開 75%	武田薬品 工業	野菜試験岡支 場, 同久留米 支場.	基礎試験 (1年生 雑草全般対象で, 適用作物, 処理時 期, 使用薬量の検 討); 全面またはう ね間株間土壌; は 種後または定植後; 10, 20, 30g.	新規 継	試験年次 不足.
2.キャベツ 〔春まき露 地移植〕	(1)NP-48 (Na) ・ ○カルボ ジメト ン	水溶	2-[1-(N- アリルオキシア ミノ)-ブチリデ ン] 5,5-ジメチ ル-4-メトキシ カルボニル- シクロヘキサ ン-1,3-ジオン Na塩 75%	日本曹達	群馬園試, 広 島農試, 熊本 農試園芸支場.	適用性試験 (1年 生イネ科雑草対象 で茎葉全面処理剤 としての実用性検 討); 全面茎葉; 生 育期, イネ科雑草, 2~4葉期; 7,10, 15g.	新規 継	試験年次 不足.
(春~夏ま き露地移 植)	(2)S-28 ・(有機リ ン系) ○クレマ ート	乳	0-エチル-0 -(3-メチル- 6-ニトロフェニ ル-N-セカンダ リーブチルホスホ ロチオアミデート 50%	U-クレ マート研 究会 (事務局 ・住友化 学工業)	岩手園試, 福 島園試いわき 支場, 長野農 総試野菜花き 試, 広島農試.	適用性試験 (畑地 1年生雑草対象に 薬量低減による効 果の確認); 全面土 壌; 定植前, 雑草 発生前~始期; 20, 30, 40 ml.	継続 実	(判定済) (春~夏まき 露地移植) 定植前20~ 50 ml, 全面 土壌処理.
(春~夏ま き露地移 植)	(3)SL-55 ・(ジフェ ニル エーテ ル系) ○	水和	2-クロル-4 -トリフルオル メチルフェニル -4'-ニトロフ ェニルエーテル 40%	石原産業	岩手園試, 福 島園試いわき 支場, 山梨農 試, 広島農試, 鹿児島農試大 隅支場.	適用性試験 (春ま き移植のキャベツ に対する薬害の検 討および畑地一年 生雑草に対する効 果確認); 全面土壌; 定植約3日前, 雑 草発生前; 13, 19, 25g.	継続 実	(判定済) (春~夏まき 露地移植) 定植前13~ 25g, 全面 土壌処理.

作物名 〔作型・栽培法〕	薬剤名 ・種類名 ・商品名	剤型	有効成分 および含有率	委託者名 (会社)	担当場所	試験の種類; 処理 方法; 処理時期; 散布薬量/a	新継の別 今回判定	判定理由 または内容
〔春～夏ま き露地移 植〕	(4)SSH- 36 ・アシュ ラム・ アイオ キシニ ル ○アシュ メック ス	液	アシュラム: N'- メトキシカル ボニルスル ファニルアマ イド(Na塩) 20% アイオキシニル; 3,5-ジオー ド-4-ヒド ロキシベンゾ ニトリル 3%	塩野義 製薬	北海道道南農 試, 群馬園試, 長野農総試野 菜花き試, 山 梨農試, 兵庫 農総センター 農試.	適用性試験(畑地 1年生雑草対象に うね間処理による 実用性を見る); う ね間雑草茎葉; 定 植後, 生育初期(2 ～3葉期); 80, 100, 120 ml.	新規 継	試験年次 不足.
	(5)U-67 ・プロゾ ラミド ○バンゾ ル	水和	3,4,5-トリブ ロム-N,N,α-トリ メチルピラゾ ール-1-アセ トアミド 75%	日本アッ プジョン, 武田薬品 工業	福島園試いわ き支場, 群馬 園試.	適用性試験(畑地 1年生雑草に対す る効果確認および 影響について); う ね間株間土壌; 活 着後, 発芽前～発 芽始期; 25, 30, 35g.	継続 実	(判定済) (春～夏まき 露地移植) 活着後25～ 35g, うね 間株間土壌 処理.
	(6)U-67 ・プロゾ ラミド ○バンゾ ル	粒	3,4,5-トリブ ロム-N, N, α-トリメチル ピラゾール-1 -アセトアミド 6%	日本アッ プジョン, 武田薬品 工業	岩手園試, 岐 阜高冷地農試.	適用性試験(畑地 1年生雑草に対す る効果の確認, 後 作への影響の検討) うね間株間土壌; 活着後, 雑草発芽 前; 300, 350, 400g.	継続 実	(判定済) (春～夏まき 露地移植) 活着後300 ～400g, う ね間株間土 壌処理.
3.ハクサイ 〔夏まき露 地直はん〕	(1)SD- 11831 ・ニトラ リン ○プラナビ アン	水和	4-(メチルスル フォニル)-2,6- ジニトロ-N, N-ジプロピル アニリン 50%	プラナビ アン 普及会 (事務局 :シエル 化学)	野菜試験岡支 場, 愛知農総 試験園研, 岐阜 高冷地農試, 香川農試, 長 崎総農試.	適用性試験(適用 拡大および畑地1 年生雑草対象で効 果確認); 全面土壌 ; は種後, 雑草発 芽前; 15, 20, 25g.	継続 実	(夏まき直 はん) は種後15～ 25g, 全面 土壌処理.
〔春～夏ま き露地 直はん〕	(2)トリフル ラリン ・トリフ ルラリン ○トレファ ノサイド	粒	α,α,α-トリフ ルオール-2,6- ジニトロ-N, N-ジプロピル -パラートルイ ジン 2.5%	塩野義 製薬	福島園試, 茨 城園試, 山梨 農試, 愛知農 総試験園研, 長 崎総農試.	適用拡大試験(直 はんハクサイに対 する薬害と除草効 果について); 全面 土壌; は種直後, 雑草発芽前; 300, 400, 500g.	新規 実・ 継	(実)(春～夏 まき直はん) は種後 300～ 500g, 全面土壌 処理. (継)薬害の 発生条件 について.

作物名 〔作型・栽培法〕	薬剤名 ・種類名 ・商品名	剤型	有効成分 および含有率	委託者名 (会社)	担当場所	栽培の種類; 処理 方法; 処理時期; 散布葉量/a	新継の別 今回判定	判定理由 または内容
4. レタス 〔春～夏ま き露地直 はん〕	(1) SSH- 36 ・アシュ ラム・ アイオ キシニ ル ○アシュ メック ス	液	アシュラム: N'- メトキシカル ボニルスル フェニルアマ イド (Na) 20 % アイオキシニル; 3,5 ジョード -4-ヒドロ キシベンゾニ トリル (Na) 3 %	塩野義 製薬	岩手園試, 長 野農総試野菜 花き試, 山梨 農試, 岐阜高 冷地農試.	適用性試験 (畑地 雑草対象うね間処 理による実用性); うね間雑草茎葉; 生育中, 雑草生育 初期 (2 ~ 3葉期); 80, 100, 120 ml.	新規 継	試験年次 不足.
5. ネギ 〔本畑, 春 まき秋冬 どり露地〕	(1) S-28 ・(有機リ ン系) ○クレマ ート	乳	0-エチル-0 -(3-メチル- 6-ニトロフェ ニル)-N-セカ ンダリ-ブチル ホスホロチオア ミデート 50 %	U-クレ マート研 究会 (事務局: 住友化学 工業)	埼玉園試, 山 梨農試八ヶ岳 分場, 愛知農 総試園研, 鳥 取野菜試西伯 分場, 大分農 技センター.	適用性試験 (薬害 と畑地1年生雑草 に対する効果検討; 全面土壌; 活着後, 雑草発芽前; 20, 30, 40 ml.	新規 実 ・ 継	(実) (本畑・ 春まき移植) 活着 後20 ~ 40 ml., 全面土壌 処理. (継) 薬害の 発生条件 について.
[本畑, 春 まき秋冬 どり露地]	(2) SAP・プ ロメトリン ・SAP・ プロメ トリン ○エス	乳	SAP: 0,0-ジ イソプロピル -2(ベンゼン スルフォンア ミド)エチルジ チオフォスフェ ート 50 % プロメトリン: 2-メチルチオ -4,6-ビス (イソプロピル アミノ)-S- トリアジン 5 %	日本農薬	栃木農試佐野 分場, 埼玉園 試, 山梨農試 八ヶ岳分場, 鳥取野菜試.	適用性試験 (畑地 1年生雑草に対す る薬効と薬害につ いて特に慣行薬剤 に比較して); うね 間株間土壌; 活着 後雑草発芽前; 40, 60, 80 ml.	新規 実	(本畑・春 まき移植) 活着 後40 ~ 80 ml., うね 間土壌処理.
6. タマネギ 〔苗床, 春 まきハウ スまたは トンネル 育苗無マ ルチまたは マルチ〕	(1) DAC- 893 ・TCTP ○ダクタ ール	水和剤	ジメチル-テ トラクロロ-テ レフタート 75 %	中外製薬, 昭和ダイ ヤモンド 化学	北海道農試, 北海道中央農 試, 同道南農 試, 青森畑作 園試.	適用性試験 (春ま きトンネル育苗, 無マルチ・マルチ での薬害と畑地1 年生雑草に対する 効果の確認); 全面 土壌; は種後, 雑 草発芽前; 50, 75, 100 g.	新規 (・ 実 ・ 継)	(実) (寒地 ・寒冷地 ・苗床春 まき・ハ ウス・マ ルチまた は無マル チ), は種後50 ~ 100 g, 全面土壌 処理.

作物名 〔作型・栽培法〕	薬剤名 ・種類名 ・商品名	剤型	有効成分 および含有率	委託者名 (会社)	担当場所	試験の種類; 処理 方法; 処理時期; 散布薬量/a	新継の別 今回判定	判定理由 または内容
(タマネギの つづき)	DAC-893 (つづき)						実 ・ 継	(継) 薬量 (低薬量の 効果)およ び覆土の 厚さ・土 質と薬害 について.
〔本畑, 春 まき移植〕	(2)DBN ・DBN ○カソ ン	粒	2,6-ジクロル ベンゾニトリル 6.7%	兼 商	北海道農試, 北海道中央農 試.	適用性試験(スギ ナ他畑地雑草に対 する効果と薬害等 について); 全面土 壌; 茎葉倒伏期, 雑草生育期; 400, 500, 600g.	新 規 継	試験年次 不足.
〔本畑, 春 まき移植〕	(3)HSW- 763 ・_____ ○_____		① 未公開 15% ② IPC: イソ プロピル-N -(3-クロル フェニル)カー バメート 25%	北海三共	北海道中央農 試, 同北見農 試.	適用性試験(混合 による畑地1年生 雑草に対する効果 と薬害の検討); 全 面土壌; 活着後, 雑草発芽前~始期; 30, 40g.	新 規 継	試験年次 不足.
〔本畑, 春 まき移植〕	(4)アイオキ シニルオ クタノエ ート ・アイオ キシニ ルオク タノエ ート ○アクチ ノール	乳	3,5-ジオー ド-4-オクタノ イルオキシベン ゾニトリル 30%	塩野義 製薬	北海道中央農 試, 同北見農 試.	適用性試験(1年 生広葉雑草対象で 処理時期と薬量に ついて); 全面雑草 茎葉; 生育期, 雑 草生育初期2~3 葉期; 7.5 10, 15ml.	継 続 実 ・ 継	(実)(寒地春 まき移植 ・本畑) 6月上旬 まで雑草 2~3葉 期7.5~ 15ml, 全 面雑草処 理. (継)薬害の 発生条件 について.
〔本畑, 春 まき移植〕	(5)KWH- 751 ・_____ ○_____	水和	未 公 開 50%	協和醗酵 工 業	北海道農試, 北海道中央農 試, 同道南農 試.	適用性試験(1年 生広葉雑草対象と し, 雑草生育期茎 葉処理による雑草 防除); 全面雑草茎 葉; 活着後, 雑草 生育初期2~4葉 期, 40, 80g.	新 規 継	試験年次 不足.
〔本畑, 春 まき移植〕	(6)NIP+ CIPC (現地混合)	乳	NIP: 2,4-ジ クロルフェニル -4-ニトロ	東京有機 化学工業, 三洋貿易	北海道農試, 北海道中央農 試, 同北見農試.	適用性試験(NIP で効果の劣るハコ ベ等を抑草するた	継 続 実	(寒地・春ま き移植本 畑)

作物名 〔作型・栽培法〕	薬剤名 ・種類名 ・商品名	剤型	有効成分 および含有率	委託者名 (会社)	担当場所	試験の種類; 処理 方法; 処理時期; 散布薬量/a	新継の別 今回判定	判定理由 または内容
(タマネギ のつづき)	・NIP +IPO ○(ニップ +クロロ IPO)		フェニルエー テル 25% CIPC: イソプ ロピル-N- (3-クロル フェニル)カ ーバメート 45.8%			め, OIPC を現地 混合で処理し, 1 年生雑草全般の防 除をする; 全面土 壌; 活着後雑草発 生前(移植4~12 日後); (NIP)40, 60, 80ml + (CI PC) 15ml.		活着後N IP40~ 80ml + OIPC 15ml 全 面土壌処 理.
[本畑, 春 まき移植]	(7)NK- 049 ・メトキ シフェ ノン ○カヤマ トン	水和	3,3-ジメチル -4-メトキシ -ベンゾフェノ ン 50%	日本化薬	北海道農試, 北海道中央農 試, 同北見農 試.	適用性試験(1年 生雑草に対する除 草効果と葉害につ いて); 全面土壌; 定植後雑草発芽前 ; 60, 80, 100g.	新規 継	試験年次 不足.
[本畑, 春 まき移植]	(8)S-28 ・(有機リ ン系) ○クレマ ート	乳	0-エチル-0 -(3-メチル- 6-ニトロフェニ ル-N-sec・ブ チルホスホロチ オアミドデート 50%	U-クレ マート研 究会(事 務局: 住 友化学工 業)	北海道農試, 北海道中央農 試.	効果確認試験(寒 地への適用拡大一 畑地1年生雑草対 象); 全面土壌; 活 着後, 雑草発芽前; 20, 30, 40ml.	継続 実	(判定済) (寒地春まき 移植本畑) 活着後20 ~40ml, 雑草発生 前~始期 全面土壌 処理.
[本畑, 春 まき移植]	(9)SKH- 01 ・シアナ ジン ○グラメ ックス	水和	2-(4-クロル -6-エチルア ミノ-S-トリ アジン-2-イ ルアミノ)-2- メチル-プロピ ルニトリル 50%	シエル化 学, 石原産業	北海道農試, 北海道北見農 試.	適用性試験(寒地 への適用拡大一畑 地1年生雑草対象); 全面土壌; 活着後, 雑草発芽前~始期 ; 10, 15, 20g.	継続 実	(判定済) (寒地春まき 移植本畑) 活着後10 ~20g, 全面土壌 処理.
[本畑, 春 まき移植]	(10)SL-55 ・ジフェ ニルエ ーテル 系 ○	水和	2-クロル-4 -トリフルオロ メチルフェニル -4'-ニトロフ ェニルエーテル 40%	石原産業	北海道農試, 北海道中央農 試, 青森畑作 園試.	適用性試験(寒地 における葉害と畑 地1年生雑草に対 する効果の確認); ①全面土壌, ②う ね間株間土壌; ① 定植(約3日)前; 雑草発生前②活着 (定植約5日)後, 雑草発生始期; 10, 15g.	新規 継	試験年次 不足, (薬量と除 草効果に ついて)
[本畑, 春 まき移植]	(11)YH- 90	水和	未公開 A 20% B 5%	山本農薬	北海道農試, 北海道中央農	適用性試験(寒地 での畑地1年生雑	新規 継	試験年次 不足.

作物名 〔作型・栽培法〕	薬剤名 ・種類名 ・商品名	剤型	有効成分 および含有率	委託者名 (会社)	担当場所	試験の種類; 処理 方法; 処理時期; 散布薬量/a	新継の別 今回判定	判定理由 または内容
(タマネギ のつづき)	・ _____ ○ _____				試, 同北見農 試.	草に対する除草効 果と薬害; 全面土 壌; 生育中, 雑草 発芽前~始期; 40, 50, 60g.		
7. アスパラ ガス 〔ホワイト〕	(1) SKH-01 ・ シアナ ジン ○ グラメ ックス	水和	2-(4-クロル -6-エチルア ミノ-S-トリ アジン-2-イ ルアミノ)-2- メチル-プロピ オニトリル 50%	シエル化 学, 石原産業	北海道中央農 試, 同道南農 試, 岩手園試 高冷地分場.	適用性試験 (適用 拡大および畑地1 年生雑草全般に対 する効果確認); 全 面土壌, 培土後お よび培土くずし後 〔反復処理〕; 各10, 20g.	継 続 実	(寒地・寒 冷地ホウ イト本畑) 培土後又 は培土崩 し後, 雑 草発生前 ~始期10 ~20g・全 面土壌処 理.
8. トマト 〔露地移植〕	(1) NTN-80 ・ (有機リ ン系) ○ トクノ ールM	水和	0-メチル-0 -(2-ニトロ -P-トリル)-N -イソプロピル フオスフオロア ミドチオエート 60%	日本特殊 農業製造	野菜試験岡山支 場, 茨城園試, 長野農試中 信地方試, 岐 阜農試, 佐賀 農試.	適用拡大試験 (1 年生雑草に対する 効果確認と薬害の 有無); うね間株間 土壌; 定植直後, 雑草発芽前; 25, 35, 45g.	継 続 実	(露地移植) 定植後25 ~45g. うね間株 間土壌処 理.
(露地また はトンネ ル移植)	(2) SL-55 ・ ジフェ ニルエ ーテル 系 ○ _____	水和	2-クロル-4 -トリフルオロ メチルフェニル -4'-ニトロフ ェニルエーテル 40%	石原産業	長野農試野菜 花き試, 佐 賀農試〔以上 露地〕埼玉園 試, 東京農試, 岐阜農試〔以 上トンネル〕.	適用性試験 (トマ ト移植前処理にお ける畑地1年生雑 草に対しての効果 と薬害の検討); 全 面土壌; 定植 (3 日) 前, 雑草発芽 前; 13, 19, 25g.	継 続 実	(露地又は トンネル 移植) 定植前日 ~3日前 13~25g. 全面土壌 処理.
9. ナ ス	(1) S-28 ・ (有機リ ン系) ○ クレマ ート	乳	0-エチル-0 -(3-メチル- 6-ニトロフェ ニル-N-sec -ブチルホスホ ロチオアミデー ト 50%	U-クレ マー ト研 究会 (事務局: 住友化学 工業)	栃木農試, 埼 玉園試入間川 支場, 東京農 試, 新潟園試, 愛知農試園 研.	適用性試験 (畑地 1年生雑草への効 果と薬害); 全面土 壌; 定植前, 雑草 発芽前; 20, 30, 40 ml.	新 規 実	(露地マル チ移植) 定植前マル チ前20 ~40 ml, 全面土壌 処理.
(露地移植)	(2) SSH-36 ・ アシュ ラム・ アイオ キシニ ル	液	アシュラム: N -メトキシカ ルボニスルフ ァニルアマイ ド (Na塩) 20% アイオキシニル: 3,5-ジョー	塩 野 義 製 薬	埼玉園試入間 川支場, 東京 農試, 新潟園 試, 富山農試 砺波園芸分場, 兵庫農試セン ター農試但馬 分場.	適用性試験 (畑地 1年生雑草対象で うね間処理による 実用性), うね間雑 草茎葉, 定植後, 雑草生育初期2~ 3葉期; 80, 100, 120 ml.	新 規 継	試験年次 不足.

作物名 [作型・栽培法]	薬剤名 ・種類名 ・商品名	剤型	有効成分 および含有率	委託者名 (会社)	担当場所	試験の種類; 処理 方法; 処理時期; 散布薬量/a	新継の別 今回判定	判定理由 または内容
(ナスの つづき)	○アシュ メックス		ド-4-ヒド ロキシベンゾ ニトリル 3%					
10.キュウリ [露地マル チ移植]	(1)SL-55 ・(ジフェ ニルエ ーテル 系) ○_____	水和	2-クロロ-4 -トリフルオロ メチルフェニル -4'-ニトロフ ェニルエーテル 40%	石原産業	野菜試久留米 支場, 富山農 試砺波園芸分 場, 鳥取野菜 試.	適用性試験 (薬量 を下げて露地移植 栽培での畑地1年 生雑草に対する効 果と薬害の検討); 全面土壌; 定植(約 3日前) 雑草発生 前; 10, 15, 20g.	継 続 継	年次により 試験結果不 一致につき.
11.スイカ [露地また はトンネ ル, マル チ移植]	(1)ANK- 553 ・ペノキ サリン ○_____	乳	N(1-エチルプ ロピル)-3,4- ジメチル-2,6 -ジニトロベン ゼンアミン 30%	ANK- 553 研究会 (事務局; 日本農業)	山形園試砂丘 分場, 茨城園 試, 愛知農総 試園研, 香川 農試, 熊本農 試園芸支場.	適用性試験 (畑地 1年生雑草対象に 慣行除草剤との比 較で薬効, 薬害を 見る); 全面土壌; 定植前マルチ前, 雑草発芽前; 20, 30, 40 ml.	新 規 継	試験年次不 足(ウリ類).
[トンネル・ マルチ移 植]	(2)M & B- 9057 ・アシュ ラム ○アージ ラン	液	N'-メトオキシ カルボニルスル フェニルアミド 37%	塩 野 義 製 薬	山形園試, 群 馬園試, 新潟 園試内野試験 地, 石川砂丘 地農試, 熊本 農試園芸支場.	適用性試験 (畑地 1年生雑草対象に 整地からの期間と 除草効果について); 全面土壌; 定植前 マルチ前 (整地直 後3日後, 7日後), 雑草発生前~始期 ; 100 ml.	継 続 実	(判定済) (トンネル マルチ移 植) 定植前マ ルチ前, 100~ 120 ml, 又は7日 前80~ 100 ml, 全面土壌 処理.
	(3)NTN- 80 ・有機リ ン系 ○トクノ ールM	水和	0-メチル-0 (2-ニトロ-P -トリル)-N- イソプロピル- フォスフロア ミドチオエート 60%	日本特殊 農業製造	山形園試, 茨 城園試, 新潟 園試内野試験 地, 岐阜農試, 鳥取野菜試.	適用性試験 (畑地 1年生雑草対象に 効果の確認と薬害 の有無について); 全面土壌(含体系); 定植前マルチ前お よび定植後数わら 前, 雑草発芽前; 25, 35, 45+35g.	継 続 実	(露地マル チ移植) 定植前・ マルチ前 及び数わ ら前各25 ~50 g, 全面土壌 処理.
	(4)U-67 ・プロゾ ラミド	水和	3,4,5-トリブ ロム-N,N,α- トリメチルピラ ゾール-1-ア	日本アッ プジョン, 武田薬品 工業	新潟園試内野 試験地, 香川 農試, 鹿児島 農試大隅支場.	適用性試験 (畑地 1年生雑草への効 果と薬害の確認); 全面土壌; 定植前	継 続 実 ・ 継	(判定済) (実)(露地マ ルチ移植) 定植前・

作物名 〔作型・栽培法〕	薬剤名 ・種類名 ・商品名	剤型	有効成分 および含有率	委託者名 (会社)	担当場所	試験の種類; 処理 方法; 処理時期; 散布薬量/a	新継の別 今回判定	判定理由 または内容
(スイカの つづき)	○バンゾ ル		セトアミド 75%			マルチ前, 雑草発 芽前; 25, 30, 35g.	実 ・ 継	マルチ前及 び追肥後30 ~35g全面 土壌処理. (継)薬量と除 草効果・薬 害の地域性 および追肥 後の処理方 法について.
〔露地また はトンネ ル・マル チ移植〕	(5)U-67 ・プロゾ ラミド ○バンゾ ル	粒	3,4,5-トリブ ロム-N,N; α - トリメチルピ ラゾール-1- アセトミド 60%	日本アップ ジョン, 武田薬品 工業	山形園試, 新 潟園試内野試 験地, 鳥取野 菜試, 香川農 試, 鹿児島農 試大隅支場.	適用性試験 (畑地 1年生雑草対象に 適用性の検討); 全 面土壌; 定植前マ ルチ前, 雑草発芽前 ; 300, 400, 500g.	継 統 継	試験結果不 一致.
12. (露地メ ロン) 〔トンネル (または露 地) マル チ移植〕	(1)M & B- 9057 ・アシュ ラム ○アージ ラン	液	N'-メトキシカ ルボニルスルフ ァニルアミド 37%	塩野義 製薬	北海道中央農 試, 山形園試 砂丘分場, 長 野農総試野菜 花き試, 愛知 農総試園研, 熊本農試園芸 支場.	適用性試験 (トン ネルマルチ下での 露地メロンに対す る薬害と畑地1年 生雑草に対する効 果); 全面土壌; 定 植前, 雑草発芽前 ~始期; 80, 100, 120 ml.	新 規 継	結果不一致 ・効果不足 につき.
〔露地 (ま たはトン ネル) マ ルチ移植〕	(2)S-28 ・有機リ ン系) ○クレマ ート	乳	0-エチル-0 -(3-メチル- 6-ニトロフェ ニル)-N-sec -ブチルホスホ ロチオアミデー ト 50%	U-クレ マート研 究会 (事務 局; 住友化学 工業)	北海道中央農 試, 山形園試 砂丘分場, 長 野農総試野菜 花き試, 愛知 農総試園研, 熊本農試園芸 支場.	適用性試験 (畑地 1年生雑草に対す る効果と薬害につ いて); 全面土壌; 定植前マルチ前, 雑草発芽前; 20, 30, 40 ml.	新 規 実 ・ 継	(実) (露地マ ルチ移植) 定植前マ ルチ前20 ~40 ml, 全面土壌 処理. (継) トンネル マルチ移 植栽培に ついて.
13. カンピョ ウ	(1)トリフル ラリン ・トリフル ラリン ○トレファ ノサイ ド	粒	α, α, α -トリフ ルオール-2,6- ジニトロ-N, N-ジプロピル -パラートルイ ジン 2.5%	塩野義 製薬	栃木農試栃木 分場.	適用性試験 (カン ピョウに対する薬 害と畑地1年生雑 草に対する効果); 全面土壌; 定植キ ャップ後雑草発芽 前; 400, 500, 600g.	新 規 継	試験例数不 足.
14. イチゴ 〔親株床〕	(1)ANK- 553 ・ペノキ	乳	N-(1-エチル プロピル)-3,4 -ジメチル-2,	ANK 研究会 (事務局;	栃木農試栃木 分場, 埼玉園 試, 富山農試	適用性試験 (畑地 1年生雑草対象に して慣行除草剤と	新 規 継	試験年次不 足.

作物名 〔作型・栽培法〕	薬剤名 ・種類名 ・商品名	剤型	有効成分 および含有率	委託者名 (会社)	担当場所	試験の種類; 処理 方法; 処理時期; 散布薬量/a	新継の別 今回判定	判定理由 または内容
(イチゴの つづき)	サリン 。_____		6-ジニトロベン ゼンアミン 30%	日本農業	砺波園芸分場, 静岡農試, 兵 庫農総センタ ー農試.	の比較で, 薬効・薬 害をみる); 全面土壌 ; 活着後, 雑草発芽 前; 20, 30, 40 ml.		
〔露地マル チ〕	(2) OIPC・ CPー 50144 ・IPC・ アラク ロール 。_____	乳	IPC: イソプロ ピル-N-(3 クロロフェニ ル)カーバメー ト 21.5% アラクロール: 2 ークロロ-2, 6'-ジエチル -N-(メキ シメチル)アセ トアニリド 21.5%	日産化学 工 業	北海道中央農 試(原々種農 場), 同道南農 試.	適用性試験(秋, 春期の反復処理に よる薬害, 収量へ の影響の有無, 畑 地1年生雑草への 効果について); 反 復全面土壌; 定植 後およびマルチ前, 雑草発芽前; 各15, 20, 25ml.	継 続 実 ・ 保 留	(判定済) (実)(寒地, 露地マル チ), 生育 期15~25 ml, 全面 土壌処理. (保留) 反 復処理: 試験結果 をまて 判定.
15.ダイコン 〔春~夏ま き露地〕	(1) SDー 11831 ・ニトラ リン 。プラナ ビアン	水和	4-(メチルスル フォニル)-2,6 ジニトロ-N, N-ジプロピル アニリン 50%	プラナビ アン普及 会 (事務局 : シエル 化学)	福島園試, 埼 玉園試入間川 支場, 長野農 総試中信地方 試, 富山農試 砺波園芸分場, 兵庫農総セン ター農試但馬 分場.	適用性試験(適用 拡大および一般畑 地1年生雑草に対 する効果の確認); 全面土壌; は種後, 雑草発芽前; 15, 20, 25g.	継 続 実 ・ 継	(実)(春まき 露地) は種後15 ~25g, 全面土壌 処理. (継) 薬害の 発生条件 について (土壌).
16.ニンジン 〔春まき露 地〕	(1) NKー 049 ・メトキ シフェ ノン 。_____	水和	3,3-ジメチル -4-メトキシ ベンゾフェノン 50%	日本化薬	岩手園試, 福 島園試, 埼玉 園試入間川支 場, 山梨農試 岳麓分場, 大 分農試センター.	適用性試験(畑地 1年生雑草を対象 に効果, 薬害の確 認); 全面土壌; は 種後, 雑草発生前 ; 60, 80, 100g.	継 続 実	(春まき露 地) は種後60 ~100g, 全面土壌 処理.
〔春まき露 地〕	(2) Sー28 ・(有機リ ン系) 。クレマ ート	乳	0-エチル-0 -(3-メチル- 6-ニトロフェ ニル)-N'-sec -ブチルホスホ ロチオアミデー ト 50%	Uークレ マート研 究会 (事務局: 住友化学 工業)	北海道農試, 北海道中央農 試, 同道南農 試.	適用性試験(寒地 への地域拡大, 畑 地1年生雑草に対 する効果と薬害の 確認); 全面土壌; は種後, 雑草発芽 前; 30, 40, 50ml.	継 続 実 ・ 継	(実)(寒地) は種後30 ~50ml, 全面土壌 処理. (継) 薬害の 発生条件 について.
17.ゴボウ	(1) SDー 11831 ・ニトラ リン	水和	4-(メチルスル フォニル)-2,6 -ジニトロ-N, N-ジプロピル アニリン 50%	プラナビ アン普及 会(事務局: シエル 化学)	福島園試, 茨 城園試, 埼玉 園試入間川支 場, 大分農試 センター.	適用性試験(適用 拡大および畑地1 年生雑草に対する 効果確認); は種後 雑草発芽前; 15,	新 規 継	試験年次不 足(薬害あ り).

作物名 〔作型・栽培法〕	薬剤名 ・種類名 ・商品名	剤型	有効成分 および含有率	委託者名 (会社)	担当場所	試験の種類; 処理 方法; 処理時期; 散布薬量/a	新継の別 今回判定	判定理由 または内容
(ゴボウの つづき)	○ プラナ ビアン					20, 25g.		
18.サトイモ 〔露地マルチ〕	(1)SDー 11831 ・ ニトラ リン ○ プラナ ビアン	水和	4-(メチルス ルフオニル)- 2,6-ジニトロ -N,N-ジプ ロピルアニリン 50%	プラナビ アン普及 会 (事務局: シエル化 学)	栃木農試, 千 葉農試, 愛知 農総試験研, 鹿児島農試大 岡支場.	適用性試験 (適用 拡大および畑地1 年生雑草に対する 効果確認); 全面 土壌; 定植後, 雑 草発生前; 15, 20, 25g.	新規 継	試験年次不 足. (処理方法 ・ 反復処 理)
〔春植露地〕	(2)トリフル ラリン ・ トリフ ルラリン ○ トレフェ ノサイド	粒	α, α, α -トリフ ルオール-2,6- ジニトロ-N,N -ジプロピル パラートルイジ ン 2.5%	塩野義 製薬	福島園試, 栃 木農試, 千葉 農試, 愛知農 総試験研, 鹿 児島農試大岡 支場.	適用性試験 (サト イモに対する薬害 と畑地1年生雑草 に対する効果の確 認); 全面土壌; 定 植(植付)後マルチ 前, 雑草発生前; 400, 500, 600g.	新規 実	(露地マルチ) 植付後マ ルチ前 400~ 600g, 全面土壌 処理.

B. 花き・花木類

1.キク 〔切花用, 春~夏植 露地〕	(1)SDー 11831 ・ ニトラ リン ○ プラナ ビアン	水和	4-(メチルスル フオニル)-2,6 -ジニトロ-N, N-ジプロピル アニリン 50%	プラナビ アン普及 会 (事務局: シエル 化学)	千葉農試, 静 岡農試遠州園 芸分場, 福岡 園試.	適用性試験 (畑地 1年生雑草に対す る効果と薬害); 全 面土壌; 定植後, 雑草発生前; 15, 20, 25g.	新規 継	試験年次不 足.
2.花木類 〔床がえ床〕	(1)B-3015 ・ P ・ ベンチ オカー ブ・プロ メトリ ン ○ サター ンパア ロ	粒	ベンチオカーブ : S-(4-クロ ルベンジル) -N,N-ジエ チルチオカー バメート8% プロメトリン: 2-メチルカ プト-4,6- ビスイソプロ ピルアミノ S-トリアジ ン 0.8%	クミアイ 化学工業	埼玉園試, 三 重農技センタ ー, 福岡農試 畑作試験地.	適用性試験 (畑地 1年生雑草に対す る効果と薬害); 生 育中, 床がえ後雑 草発生前; 400, 500, 600g.	継続 実	(実) (苗畑 露地) ツツジ・ ツバキ床 がえ後 400~ 600g, 全面土壌 処理. (継) 幼苗・ その他の 樹種及び 後作用に ついて.
〔成木露地〕	(2)HWー 920 ・ DCMU ○ ダイム ロン	(微) 粒	3-(3,4-ジク ロルフェニル) -1,1-ジメチ ルウレア 3%	保土谷化 学工業	埼玉園試, 三 重農技センタ ー, 福岡農試 畑作試験地.	適用性試験 (微粒 剤の茎葉処理によ る花木類の下草特 に1年生雑草防除 および花木に対す る茎葉, 土壌から	継続 実 ・ 継	(実) (成木 露地) ツツジ, ツバキ, サンゴ ジュ.

作物名 〔作型・栽培法〕	薬剤名 ・種類名 ・商品名	剤型	有効成分 および含有率	委託者名 (会社)	担当場所	試験の種類; 処理 方法; 処理時期; 散布量/a	新継の別 今回判定	判定理由 または内容
(花木類の つづき)	HW-920 (つづき)					の薬害検討); 全面 雑草; 生育中, 雑 草生育初期~生育 中(草たけ20 cm まで); 750, 1,000g.		成木植付 後750~ 1,000g, 全面雑草 処理. (継)その他 の樹種及 び後作用 について.
〔苗畑露地〕	(3)NTN- 80 ・(有機リ ン系) ○トクノ ールM	水和	0-メチル-0- (2-ニトロ- P-トリル)-N -イソプロピル フォスフォロア ミドチオネート 60%	日本特殊 農業製造	埼玉園試, 三 重農技センタ ー, 福岡農試 畑作試験地.	適用性試験(キク 科を除く畑地1年 生雑草に対する効 果確認, 薬害の有 無, 残効性, 反復処 理の時期および回 数等検討); 全面土 壌; 生育中, 雑草 発生前; 40, 50g.	継 続 実 ・ 継	(実)(苗畑露地) ツツジ・ツ バキ, 植付 後40~50g, 2~3回全 面土壌処理. (継)苗令と薬 量, 其他 の樹種及び 後作用につ いて.
	(4)SD- 11831 ・ニトラ リン ○プラナ ビアン	水和	4-(メチルスル フォニル)-2,6- ジニトロ-N, N-ジプロピル アニリン 50%	プラナビ アン普及 会 (事務局: シエル化 学)	神奈川県試相 模原分場, 兵 庫農総センタ ー農試, 福岡 農試畑作試験 地.	適用性試験(畑地 1年生雑草に対す る効果確認および 薬害について); 全 面土壌; 定植後(生 育中) 雑草発生前 ; 20, 25, 30g.	新 規	試験年次不 足.
〔緑花木 露地〕	(5)トリフル ラリン ・トリフル ラリン ○トレファ ノサイド	乳	α, α, α -トリフ ルオール-2,6- ジニトロ-N, N-ジプロピル -パラートルイ ジン 44.5%	塩 野 義 製 薬	神奈川県試相 模原分場, 兵 庫農総センタ ー農試, 福岡 農試畑作試験 地.	適用性試験(緑化 木に対する薬害の 検討と畑地1年生 雑草に対する効果 確認); 全面土壌; 活着後生育中(中 耕除草後), 雑草発 芽前; 20, 30 ml.	新 規 継	試験年次不 足.
	(6)トリフル ラリン ・トリフル ラリン ○トレファ ノサイド	粒	α, α, α -トリフ ルオール-2,6- ジニトロ-N, N-ジプロピル -パラートルイ ジン 2.5%	塩 野 義 製 薬	神奈川県試相 模原分場, 兵 庫農総センタ ー農試, 福岡 農試畑作試験 地.	適用性試験(緑化 樹に対する薬害と 畑地1年生雑草に 対する除草効果); 全面土壌; 活着後 生育中(中耕除草 後) 雑草発芽前; 400, 500g.	新 規 継	試験年次不 足.

II. 除 草 資 材

作物名 〔作型・栽培法〕	薬剤名 ・種類名 ・商品名	剤型	有効成分 および含有率	委託者名 (会社)	担当場所	試験の種類；処理 方法；処理時期； 散布薬量/a	新継の別 今回判定	判定理由 または内容
1. レタス 〔高冷地夏 まき露地 マルチ〕	(1)SD- 11831 シート ・ニトラ リン、 フィルム ○サッソー ホーリー シート	フィル ム状	4-(メチルスル フォニル)-2,6 -ジニトロ-N, N-ジプロピル アニリン 8, 10g/a	三菱油化、 シエル化 学、みか ど化工	岩手園試高冷 地分場、長野 農総試野菜花 き試、山梨農 試岳麓分場、 岐阜高冷地農 試、	適用性試験（畑地 1年生雑草に対す る除草効果、慣行 使用フィルムとの 生育、収量比較）； 全面土壌被覆；は 種前、雑草発芽前 ； 8, 10g.	継 続 継	試験結果不 一致。

III. 前回未検討除草剤

作物名 〔作型・栽培法〕	薬剤名 ・種類名 ・商品名	剤型	有効成分 および含有率	委託者名 (会社)	担当場所	試験の種類；処理 方法；処理時期； 散布薬量/a	新継の別 今回判定	判定理由 または内容
1. 花木類 〔苗畑露地〕	(1)B-3015 ・P ・ベンチ オカー ブ・プロ メトリ ン ○サター ン・パ アロ	粒	ベンチオカーブ： S-(4-クロ ルベンジル) -N,N-ジエ チルチオカー バメート 8% プロメトリン： 2-メチルメ ルカプト-4, 6-ビスイソ プロピルアミ ノ-S-トリ アジン 0.8%	クミアイ 化学工業	埼玉園試、福 岡農試畑作試 験地（三重農 技センターは 前回提出）。	適用性試験（畑地 1年生雑草対象で 効果と被害の検討） ； 全面土壌；生育 中、床がえ後、雑 草発生前； 400, 500, 600g.	継 続	試験年次不 足。
〔成木露地〕	(2)HW- 920 ・DOMU ○_____	(微) 粒	3-(3,4-ジク ロルフェニル) -1,1-ジメチ ルウレア 3%	保土谷化 学工業	埼玉園試、福 岡農試畑作試 験地（三重農 技センターは 前回提出）。	適用性試験（微粒 剤の茎葉処理によ る畑地1年生雑草 の防除と被害の検 討）；全面雑草茎葉 ；生育中、雑草生 育初期～生育中； 750, 1,000g.	継 続	試験年次不 足。
〔苗畑露地〕	(3)レナシル ・レナシル ○レンザー	水和	3-シクロヘキ シル-5,6-トリ メチレンウラ シル 80%	丸和バイ オケミカ ル	埼玉園試、福 岡農試畑作試 験地（三重農 技センターは 前回で完了）。	適用性試験（畑地 1年生雑草に対す る効果確認と被害 特に連用による樹 木への影響など）； 全面土壌；植付後、 植付前、雑草発生 前； 10, 15g.	実 ・ 継	(実)（苗畑 露地） ツツジ・ ツバキ、 植付後10 ～15g、 年1～2 回全面土

作物名 〔作型・栽培法〕	薬剤名 ・種類名 ・商品名	剤型	有効成分 および含有率	委託者名 (会社)	担当場所	試験の種類; 処理 方法; 処理時期; 散布量/a	新継の別 今回判定	判定理由 または内容
(花木類の つづき)	レナシル (つづき)							壊処理。 (総) 其他 の樹種及 び後作用 について。
〔苗畑露地〕	(4)NTN- 80 ・(有機リン系) ○トクノ ールM	水和	0-メチル-0- (2-ニトロ- P-トリル)- N-イソプロピ ル-フォスフォ ロアミドチオネ ート 60%	日本特殊 農薬製造	埼玉園試, 福 岡農試畑作試 験地(三重農 技センターは 前回提出)。	適用性試験(畑地 1年生雑草に対す る効果の確認およ び樹木に対する影 響について); 全面 土壌反復; 植付後; 植付前, 雑草発生 前; 40, 50g.	継続	試験年次不 足。

IV. 野菜対象生育調節剤

作物名 〔作型・栽培法〕	薬剤名 ・種類名 ・商品名	剤型	有効成分 および含有率	委託者名 (会社)	担当場所	試験の種類; 処理 方法; 処理時期; 散布量/a	新継の別 今回判定	判定理由 または内容
1. 野菜一般	(1) Oa O ₂ ・過酸化 カルシウム (活着促進剤) ○カルパー	粒	カルシュウムパ ーオキサイド 54%	カルパー 研究会 (事務局 : 日本パ ーオキサ イド)	野菜試。	基礎試験(移植野 菜の初期生育にお ける活着促進およ び根群の活力維持 ; 植穴土壌混層; 移植時; 1, 2, 5 g /株。	新規 継	試験年次不 足。
2. レタス 〔露地マルチ移植〕	(1) J G- 01 ・椎茸菌 系体抽出 (生育促進剤) ○(ジョウ ゲン)	水溶	椎茸菌系体抽出 物 多糖類, たん ぱく質, アミ ノ酸, 核酸, ビタミン, 無 機塩類など 700mg/100ml	日本合成 ゴム	埼玉園試, 長 野農総試野菜 花き試, 静岡 農試遠州園芸 分場。	適用性試験(数回 の葉面散布による 増収効果); 茎葉; 定植後10~15日お き3~5回; 500 倍液25l/a。	継続 継	試験年次不 足。
〔春, 夏ま き露地移植〕	(2) K C- 481 ・(生育促進剤) ○_____	液	ニコチン酸アミ ド 10%	科研化学	埼玉園試, 長 野農総試野菜 花き試, 静岡 農試遠州園芸 分場。	適用性試験(春, 夏まきの両作型別, 生育促進あるいは 増収効果); 土壌第 1回移植時および 定植時反復; 0.1, 1.0, 10.0 ppm 3 l/m ² 。	継続 継	効果不足に つき(処理 量・処理方 法について)。
3. セルリー 〔露地普通〕	(1) J G- 01	水溶	椎茸菌系体抽出 液	日本合成 ゴム	東京農試〔千 葉暖地園試,	適用性試験(葉面 散布による増収効	新規 継	試験年次不 足。

作物名 〔作型・ 栽培法〕	薬剤名 ・種類名 ・商品名	剤型	有効成分 および含有率	委託者名 (会社)	担当場所	試験の種類；処理 方法；処理時期； 処理薬量/a	新継の別 今回判定	判定理由 または内容
(セルリー のつづき)	・椎茸菌 系体抽 出物 (生育促 進剤) ○ジョウ ゲン				兵庫農総セン ター農試宝塚 分場の2場所 は試験中).	果); 茎葉; 定植後 10~15日おきに5 回; 500 倍液, 25 l/a.		
4.タマネギ 〔春まき移 植(苗株)〕	(1)ヒドロキ シイソキサ ゾール ・ヒドロ キシイ ソキサ ゾール (初期生 育促進 剤) ○タチガ レン	粉 および 液	8-ヒドロキシ -5-メチルイ ソキサゾール 粉剤 4% 液剤 30%	三 共	北海道農試, 北海道中央農 試.	適用性試験(苗質, 有効苗率の向上お よび移植後の活着, 初期生育の促進, 粉液剤体系処理の 有効性について); 土壌混和(粉) およ び苗床かん注(液); は種前(粉) および 定植2週間前(液) ; 25g/m ² (粉)お よび1,000,2,000 倍液3 l/m ² (液).	継 続 継 ?	効果が明らかでない で.
(春まき 移植)	(2) I B A ・ I B A (活着促 進剤) ○オキシ ペロン	液	インドール略酸 0.4	塩 野 義 製 薬	北海道農試, 北海道上川農 試.	適用性試験(乾ぶ 病防止のために使 用するベノミル剤 との併用による活 着促進と増収); 苗 根部浸漬; 植付時 ; 1500, 1000倍液.	新 規 継	試験年次不 足.
5.アスパラ ガス 〔ホワイト またはグ リーン〕	(1)K P- 1100 ・ (摘ら い剤) ○_____	乳	未 公 開 28%	花王石鹼	北海道中央農 試, 同道南農 試.	適用性試験(摘蕾 効果); 全面茎葉; 小花蕾期または中 花蕾期およびその 7~10日後反復; 200~100 倍液.	新 規 継	試験年次不 足.
6.食用ユリ 〔販売およ び養成球〕	(1)K P- 1100 ・ (摘ら い剤) ○_____	乳	未 公 開 28%	花王石鹼	北海道中央農 試.	適用性試験(薬剤 による摘蕾); 茎葉 (つぼみをめがけて) ; 出蕾初期; 100 ~50倍液, 10 cc /株.	新 規 継	試験年次不 足.
7.トマト 〔加工用 露地〕	(1)31603 -S ・ (生育抑 制, 着 果促進 剤) ○_____	水和	2-ベンズイミ ドイル-3-ヒ ドロキシ-1,4 -ナフトキノ ン 9%	塩 野 義 製 薬	野菜試験岡支 場, 茨城園試, 長野農総試中 信地方法試.	適用性試験(草勢 安定化-着果促進, 生育抑制による増 収効果); 全面茎葉 ; 開花盛期; 200, 400ppm 5 l/a.	継 続 実 ・ 継	(実)(加工用 露地) 開花盛期 200 ~ 400 ppm 5 l/a 全 面茎葉散

作物名 〔作型・栽培法〕	薬剤名 ・種類名 ・商品名	剤型	有効成分 および含有率	委託者名 (会社)	担当場所	試験の種類；処理 方法；処理時期； 散布薬量/a	新継の別 今回判定	判定理由 または内容
(トマトの つづき)	31603-S (つづき)							布処理。 (継) 散布 量につい て。
〔加工用 露地〕	(2)CHMP ・(生育抑 制剤) ○トライ ロント マト	液	4-クロル-2 -ヒドロキシメ チルフェノキシ 酢酸ナトリウム 9.8%	塩野義 製薬	青森畑作園試， 山形園試，茨 城園試。	適用性試験（過繁 茂防止効果の確認） ；全面茎葉；開花 盛期；1500,1000, 500 倍液。	新規 継	試験年次不 足。
8.キュウリ 〔施設育苗〕	(1)AHC- 50G ・(水分補 給資材) ○ハイドロ アップ	粒	ポリエチレン オキサイド 50%	日本カー リット， 長瀬産業	栃木農試，埼 玉園試，岐阜 農試。	適用性試験（育苗 期間中のかん水の 省略）；土壌混和； 苗床作り時；0.4, 8g/培土1L，(慣 行，隔日，2日お きかん水)。	継続 実 ・ 継	(実)(キュウ リ) 育苗用土 8g/L混 和処理。 (継)薬量お よび他作 物への適 用につい て。
9.スイカ 〔露地 マルチ〕	(1)IBA ・IBA (人口交 配補助 剤) ○オキシ ベロン	液	インドール酪酸 0.4%	塩野義 製薬	青森農試，山 形園試，茨城 園試。	適用性試験（人工 交配の補助剤とし ての効果を検討す る）；果こう部へ塗 布または散布；開 花当日，人工支配 後；100~50 倍液。	新規 継	試験年次不 足。
10.露地 メロン 〔トンネル (またはハ ウス)マ ルチ〕	(1)BA ・ベンジル アデニン (着果促 進剤) ○ピーエー	液	N-ベンジルア ミノプリン 3%	クミアイ 化学工業	北海道中央農 試，秋田農試， 山形園試砂丘 分場，千葉農 試，新潟園試， 愛知農総試園 研，香川農試。	適用性試験（着果 促進効果）；果梗部 塗布；開花当日； 0.75 1.0%。	継続 実 ・ 継	(実)(トンネ ルマルチ 栽培) 開花当日 又は翌日 0.75 ~ 1.0%液 果こう塗 布処理。 (継)処理時 期・処理 法・品種 ・作型お よび果実 の品質に ついて。
	(2)CaO ₂	粒	カルシウムパ	カルパー	岐阜農試，佐	適用性試験（移植	新規	試験年次

作物名 〔作型・栽培法〕	薬剤名 ・種類名 ・商品名	剤型	有効成分 および含有率	委託者名 (会社)	担当場所	試験の種類; 処理 方法; 処理時期; 散布葉量/a	新継の別 今回判定	判定理由 または内容
(露地メロ ンのつづ き) 〔露地〕	・過酸化 カルシ ウム (初期生 育促進 剤) ○カルパー		一オキサイド 54%	研究会 (事務局; 日本パー オキサイド)	賀農試.	後の初期生育の安定化); 植穴土壌混 層; 移植時; 1, 2, 5g/株.	継	不足.
(トンネル)	(3)CHMP ・(着果促 進剤) ○トライ ロント マト	液	4-クロル-2 -ヒドロキシメ チルフェノキシ酢 酸ナトリウム 9.8%	塩野義 製薬	千葉農試砂丘 野菜研, 新潟 園試, 香川農 試.	適用性試験 (着果 促進, 果実の品質 向上について); 花 梗塗布; 開花前, 開花時, 開花翌日 ; 750 ~ 250 倍液.	新規 継	試験年次不 足.
11. イチゴ (子苗床)	(1)ヒドロキ シイソキ サゾール ・(ヒドロ キシイ ソキサ ゾール (生育促 進剤) ○タチガ レン	粉	3-ヒドロキシ -5-メチルイ ソキサゾール 4%	三共	栃木農試栃木 分場, 埼玉園 試, 岐阜農試.	適用性試験 (苗質 向上と有効苗率の 向上); 土壌混和; 植付前: 12.5, 25, 50g/m ² .	継続 継?	明らかな効 果が認めら れないので.
(露地また はハウス)	(2)M-11 ・(成熟促 進剤) ○エルゴ スチム	液	未公開	日本モン テジソン	野菜試盛岡支 場, 北海道道 南農試, 岩手 園試, 埼玉園 試.	作用性, 適用性試 験 (円熟促進, 増 収効果); 茎葉; 開 花開始期より開花 終りまで10~15日 間隔で3回散布; 4.5 ml/a.	新規 継	試験年次不 足.
12. レンコン	(1) CaO ₂ ・過酸化 カルシ ウム (生育促 進剤) ○カルパー	粒	カルシウムパ ーオキサイド 54%	カルパー 研究会 (事務局 : 日本パー オキサ イド)	山口農試, 佐 賀農試.	適用性試験 (生育 促進); (基肥と同 時施用) 土壌混層; 植付時, 1000, 2000g.	継続 継	栽培条件 (施肥法) と効果発現 について.

V. 野菜対象生育調節資材

1. 野菜一般 〔露地 マルチ〕	(1)SP マル チシート ・(易処理	フィ ルム 状	ポリエチレン 炭化カルシウム 混合物フィルム	日産化学 工業	野菜試.	基礎試験 (従来の マルチ資材との比 較と光崩壊性).	新規 継	試験年次不 足.
------------------------	---------------------------	---------------	------------------------------	------------	------	-----------------------------------	---------	-------------

作物名 〔作型・栽培法〕	薬剤名 ・種類名 ・商品名	剤型	有効成分 および含有率	委託者名 (会社)	担当場所	試験の種類；処理 方法；処理時期； 散布葉量/a	新継の別 今回判定	判定理由 または内容
(野菜一般 のつづき)	性被覆 資材) ○サンブ ラック					易燃性による省力 ；被覆・マルチ時。		
2.レタス 〔春まき露 地マルチ〕	(1) SPマル チシート ・(易処理 性被覆 資材) ○サンブ ラック	フィ ルム 状	ポリエチレン } 炭酸カルシウム } 混合物フィルム	日産化学 工 業	長野農総試野 菜花き試。	基礎試験（従来の マルチ資材との比 較と光崩壊性，易 燃性による省力； 被覆；マルチ時。	新 規 継	試験年次不 足。
(露地マル チ直はん または移 植)	(2) MCー マルチシ ート ・(被覆 資材) ○ミクロ ンマルチ	液	A 液：天然ラテ ックス 10% B 液：P. V. A 3%	日本技研	野菜試盛岡支 場，岩手園試 高冷地分場， 山梨農試岳麓 分場。	適用性試験（慣行 資材との比較と光 崩壊性による省力 化）；全面土壌；散 布；マルチ時；A： 10＋B：10L。	新 規 継	試験年次不 足。
3.ダイコン 〔春まき露 地マルチ〕	(1) DM-S， DM-L ・(光崩壊 性マル チ資材) ○ダイセ ルフィ ルム	フィ ルム 状	ポリイソブチレ ンオキシサイド	ダイセル	茨城園試，岐 阜農試。	適用性試験（光崩 壊性マルチフィル ムの作物生育にお よぼす影響と省力 効果）；土壌被覆； は種前。	継 続 継	試験年次不 足。
4.スイート コーン 〔春まき露 地マルチ〕	(1) DM-S， DM-L ・(光崩壊 性マル チ資材) ○ダイセ ルフィ ルム	フィ ルム 状	ポリイソブチレ ンオキシサイド	ダイセル	茨城園試，岐 阜農試。	適用性試験（光崩 壊性マルチフィル ムの作物生育にお よぼす影響および 省力効果）；土壌被 覆；は種前。	継 続 継	試験年次不 足。

VI. 花き対象生育調節剤（材）

作物名 〔作型・栽培法〕	薬剤名 ・種類名 ・商品名	剤型	有効成分 および含有率	委託者名 (会社)	担当場所	試験の種類；処理 方法；処理時期； 散布葉量/a	新継の別 今回判定	判定理由 または内容
1.球根類 一般 〔ハウス〕	(1) ACP- 68-250 +GA	液	ACP-68-250 ：クロルエチル ホスホン酸	2,4-D 協議会， 協和醸酵	埼玉園試，〔干 葉暖地園試， 福岡園試は試	作用性試験（球根 の休眠打破，生育 促進）；球根浸漬；	新 規 継	試験年次不 足。

作物名 〔作型・栽培法〕	薬剤名 ・種類名 ・商品名	剤型	有効成分 および含有率	委託者名 (会社)	担当場所	試験の種類; 処理 方法; 処理時期; 散布薬量/a	新継の別 今回判定	判定理由 または内容
(球根類の つづき)	・ _____ ○ エスレ ル+ジ ベレリン		10 % GA: ジベレリ ンA ₃	工 業	験中).	エスレル 2.000 ま たは 500PPm, GA 100PPm.		
2.草花類 〔シクラメ ン, ホッ トマム, プリムラ 〔施設〕	(1) AHC- 50G ・ (水分補 給資材) ○ ハイドロ アップ	粒	ポリエチレン オキサライド 50 %	日本カー リット, 長瀬産業	千葉農試 (プ リムラ) (試験 中), 東京農試 (シクラメン), 奈良農試 (ポ ットマム).	適用性試験 (かん 水の省力化); 土壌 混和; 鉢植時: 8g / 土壌 1L.	継 続 継	試験結果不 一致.
3.キク (ポット マム) 〔鉢 植〕	(1) ALDEL ・ (生長抑 制剤) ○ アルデン	液	未 公 開 5 %	日 本 ロ シュ	野菜試久留米 支場, 東京農 試, 神奈川園 試, 愛知農総 試験研, 福岡 園試.	適用性試験 (鉢植 キクのわい化効果) ; 茎葉散布; 新芽 長 2 ~ 3 cm 時 (必 要な時は第 2 回目 として 10 日後); 0.2 0.3, 0.4 %	新 規 継	試験年次不 足.
〔福助作り〕	(2) EL- 531 ・ アンシ ミドール (矮化剤) ○ スリト ーン	液	α-シクロプロ ピル-α- (P -メトキシフェ ニル) -5-ピ リミジンメタノ ール 0.025 %	武田薬品 工 業	愛知農総試験 園試, 鳥取野菜 試, 香川農試.	適用性試験 (低薬 量でのわい化効果 の検討ならびに高 薬量での効果確認); 土壌かん注および 茎葉散布; 鉢あげ 2 週間後; 各処理 共 0.5, 1.0, 2.0 ml / 5 号鉢.	継 続 継	はち上げ 2 週間後 (短 日処理開始 時) 5 号ば ち当たり 1 ml 茎葉散布 又は土壌か ん注処理.
4.カーネ ーション 〔普 通〕	(1) IBA ・ (発根促 進剤) ○ オキシ ベロン	液	インドール酪酸 0.4 %	塩 野 義 製 薬	静岡有用植物 園, 兵庫農総 試験研, 福岡 園試.	適用性試験 (さし 穂基部短時間浸漬 ならびに散布処理 による発根促進効 果の検討); さし穂 基部浸漬 (10 秒) またはさし芽基部 散布; さし穂直前 ; [浸漬] 2 倍液. [散布] 3 ~ 5 cc/ 50 本.	継 続 突	1 ml / 12 本 さし木前, 基部散布処 理.
5.花木一般 (花木類) 〔さし木〕	(1) JG-01 ・ 椎茸菌 糸体抽出物 (発根促 進剤) ○ ジョウ ゲン	液	椎茸菌糸体抽出 物: 多糖類, た んぱく質, ア ミノ酸, 核酸, ビタミン, 無 機塩など 700 mg / 100 ml	日本合成 ゴム	山形園試, 山 梨農試八ヶ岳 分場, 兵庫農 総センター農 試.	適用性試験 (さし 木における発根促 進); 浸漬 (1 ~ 3 時間); さし木前; 100, 200, 500 mg / L.	継 続 継	結果不一致 につき.

作物名 〔作型・栽培法〕	薬剤名 ・種類名 ・商品名	剤型	有効成分 および含有率	委託者名 (会社)	担当場所	試験の種類；処理 方法；処理時期； 散布薬量/a	新継の別 今回判定	判定理由 または内容
〔露地〕	(2)JG-01 ・椎茸菌糸体抽出物 (着花増進剤) ○ジョウゲン	液	椎茸菌糸体抽出物：多糖類，たんぱく質，アミノ酸，核酸，ビタミン，無機塩など700mg/100ml	日本合成ゴム	山形園試，山梨農試八ヶ岳分場，兵庫農総センター農試。	適用性試験（着花数増大）；葉面散布；生育中0.1,0.5,1.0g/l.	新規 継	試験年次不足。
	(3)N-20000 ・ベンジルアデニン (発根促進剤) ○_____	水和	2-ベンジル，アデノプリン1.0%	日研化学	埼玉園試，神奈川園試相模原分場。	適用性試験（さし木の発根促進）；さし穂基部浸漬；さし木前24時間内；1,5,10ppm.	継続 継	試験結果樹種により不一致につき樹種をしばって継続。
〔ばら植え〕	(4)ATRI NAL ・(分枝数増加剤) ○アトリナール	液	2,3；4,6-ジ-0-イソプロピリデン-2-ケト-L-グルコン酸ナトリウム20%	日本ロシュ	野菜試久留米支場，福島園いわき支場，神奈川園試相模原分場，三重農技センター，福岡園試，福岡農試畑作試験地，三重大学。	適用性試験（Rhododendron属花木の分枝数増加）；茎葉散布；開花終期；0.2～0.6%，250ml/m ² 。（展着剤1%加用）。	継続 実・ 継	(実)ツツジ類，0.4～0.6%（ギザレアは0.2～0.3%）液（展着剤1%加用）250ml/m ² 新しう伸長初期散布。 (継)翌年販売予定株の花芽形成と処理濃度および処理時期との関係について。
6.庭木 〔露地〕	(1)ATRI NAL ・(摘果剤) ○アトリナール	液	2,3；4,6-ジ-0-イソプロピリデン-2-ケト-L-グルコン酸ナトリウム20%	日本ロシュ	千葉農試，神奈川園試相模原分場。	適用性試験（イヌツゲの摘果）茎葉散布；開花前；0.1 0.2 0.3%。	新規 継	試験年次不足。
7.生垣用 樹木	(1)ATRI NAL ・(生育抑制剤) ○アトリナール	液	2,3；4,6-ジ-0-イソプロピリデン-2-ケト-L-グルコン酸ナトリウム20%	日本ロシュ	野菜試久留米支場，福島園試いわき支場，栃木農試鹿沼分場，神奈川園試相模原分場，三重農技センター，福岡農試畑作試験地，三重大学。	適用性試験（生垣の整枝および生育抑制）；茎葉散布；早春，新梢伸長期；有効成分で0.1～0.4%100ml/m ² 。（展着剤1%加用）。	継続 継	試験結果樹種により不一致につき樹種をしばって継続。

VII 前回未検討生育調節剤

作物名 (作型・栽培法)	薬剤名 ・種類名 ・商品名	剤型	有効成分 および含有率	委託者名 (会社)	担当場所	試験の種類；処理 方法；処理時期； 散布薬量/a	新継の別 今回判定	判定理由 または内容
1. レタス (春まき露地移植)	(1) K C - ・生育促進剤) 。――	液	ニコチン酸アミ ド 10%	科研化学	埼玉園試.	適用性試験(生育 促進, 増収効果); 土壌; は種後; 0.1, 1.0 10.0 ppm .	新規 継続	試験年次不足.
2. タマネギ	(1) O K - 301 S ・MH (萌芽抑制 剤) 。O M H - 30	液	マレイン酸ヒド ラジドカリウム 塩 21.7%	大塚化学 薬 品	岐阜農試〔兵 庫農総センタ ー農試は試験 中〕.	適用性試験(貯蔵 中抑制効果); 全面 土壌; 生育期, 収 穫 2 ~ 3 週間前; 120 倍液, 10l/a.	新規 保留	全成績の提 出をまって 判定.

I. 除 草 剤

A. 野 菜 類

1. 野菜一般(基礎試験)

(1) NP-48 (Na) 水溶剤(日本曹達): 継続 — 試験年次不足.

カルボジメトン75%を含有する水溶剤で, イネ科植物に特異的に作用して枯殺するが, カヤツリグサや広葉雑草には効果がない。低温時には効果が劣るが, 残効性は土壌処理剤として短い方であり, 移動性は反対に大きい方である。同様の作用特性をもつNP-24が, キャベツで実用化になっているが, 多年生イネ科草本の抑草力もきわめて大きい。今回の基礎試験は, 野菜試盛岡支場・同久留米支場で行われ, 前者が7~15, 後者が7~30gの, イネ科雑草2~3葉期又は4~5葉期, 全面雑草処理を行った。対象野菜は盛岡がキャベツ・レタス・ホウレンソウ・ニンジン, 久留米がレタス・トマト・キュウリ・ダイコン・ニンジンで, とともに直はん栽培である。その結果いずれの場合も作物の葉害なく, 収量にも差を認めなかった。雑草に対して

は, メヒシバ対象の処理となったが, 盛岡では発生不足で効果の確認困難, ただし卓効をもつと推測はできる。久留米では15~30g/aが必要という結果となった。試験年次が不足なので, さらに対象作物をしぼって継続となった。

(2) SL-501 水溶剤(石原産業): 継続 — 試験年次不足.

成分未公開40%の水溶剤で, 昭和50年秋冬作でも基礎試験が行われている。ただし同年には, 501-B 剤が試験されており, 今回のものが, それと同一であるか明らかでない。イネ科雑草に特効をもつ移行型薬剤で, 他の草種には効果がない。NP-48と同様の野菜について, 雑草生育盛期の15~45g(盛岡), 15~60g(久留米), 全面処理が行われた。その結果, 盛岡の直はん・移植, 久留米の直はん栽培ともに, 作物の異常を認めず, 収量にも差はなかった。除草効果は, イネ科雑草に限られてはいるがいずれにおいても高く, 45~60gで完全に枯殺し, 持続期間は薬量に関係なく, 2か月程度(久留米)であった。作用特性がわかったので, 対象作物をしぼって, 試験継続と判定された。

(3) SL-502 水溶剤(石原産業): 継続 —

試験年次不足。

成分未公開40%の水溶剤で、昭和50年秋冬作でも基礎試験が行われている。ただしその折の薬剤名は502-Bであって、同一物か否かは不明である。野菜試験盛岡支場と同久留米支場とで、前出剤と同一の作物を用い、前者では15～45g・直はん・移植栽培での、雑草生育盛期全面処理、後者では25～100g・直はん栽培での同一処理を行った。その結果いずれの処理でも異常や収量の差を認めず、除草効果については、申請どおりイネ科雑草に卓効のあることを確認した。薬量は45～60gできわめて効果の大きいことがわかったので、対象作物をしぼって、さらに試験継続ということになった。ただし、今回の試験でのイネ科雑草とは、主にメヒシバなので、他のイネ科雑草についても、効果の確認が必要とされている。

(4) TH-68 乳剤 (武田薬品工業): 継続—試験年次不足。

成分未公開のA剤24%, 同B剤12%, 計36%を含有する液剤で、非ホルモン・吸収移行型薬剤である。昭和50年度の秋冬作で基礎試験が行われている。今回は春夏作での試験であって、野菜試験盛岡支場がキャベツ・レタス・ホウレンソウ・ニンジンの30～50gは種後土壌処理、同久留米支場が前回試験で薬害を認めなかったニンジン・エンドウに加えて、ソラマメ・エダマメ・インゲンマメで同様の処理を行った。その結果、盛岡ではニンジンについては発芽・生育・収量に異常を認めなかったが、その他のものでは発芽後の生育に肉眼的な薬害が観察され、収量も低下した。久留米では供試全作物で異常を認めなかった。除草効果については、アカザ・イヌガラシに大で、スベリヒユ・メヒシバにはそれより劣る(盛岡)、雑草の少いほ場である

がメヒシバには有効で、特に広葉雑草には効果大(久留米)という結果となった。有望であった作物に対象をしぼって、さらに試験継続と判定された。

(5) TH-69 水和剤 (武田薬品工業): 継続—試験年次不足。

成分未公開の75%水和剤で、昭和50年秋冬作で基礎試験が行われた。非ホルモン型の発芽阻止剤で、野菜試験盛岡支場では前出剤と同様の材料について、は種後処理と生育期処理(定植後うね間・株間処理)、同久留米支場でもNP-48と同様の材料で、生育期処理を行った。その結果盛岡ではニンジンでは発芽・生育に異常なく、キャベツ・レタスの生育期処理も同様であった。久留米ではレタス・トマト・ナス・キュウリ・カボチャの定植後処理で異常を認めなかった。除草効果は、盛岡の場合エノキグサとツユクサを除いて十分、移植栽培ではややイネ科雑草に効果不足との結果となり、久留米では全般に雑草の少いほ場であったが、イネ科雑草に効果大という反した成績が得られた。今回有望と判定された作物を対象として、さらに試験を継続することになった。

2. キャベツ

(1) NP-48 (Na) 水溶剤 (日本曹達): 継続—試験年次不足。

前出の薬剤で、適用試験が平行的に行われた。群馬園試、広島農試、熊本農試園芸支場で、7～15gの生育期全面雑草処理が行われた。各場所とも、キャベツの生育・収量に差を認めなかったが、除草効果については結果がわかれた。すなわち、群馬ではメヒシバ・ヒエにはすぐれるが、カヤツリグサに対する効果が不足、広島でも幼令のイネ科雑草には有効であるが、令が

進むと効果なく、スズメノカタビラ・一般広葉雑草にも効果なし、熊本園芸でも同様の結果を得ている。したがってイネ科雑草の優占するほ場でのみ有望との判定で意見の一致をみた。試験年次が不足なので、試験を継続する。

(2) **S-28 乳剤** (U-クレマート研究会): 実用化 (前回判定どおり) - [春~夏まき・露地移植] 定植前20~50 ml 全面土壌処理。

有機リン系50%の乳剤で、すでに再三多くの野菜で実用化の判定を得ている。キャベツについては、昭和50年の春夏作・秋冬作で上記のように実用化となっている。その折、処理量なるべく下げる様との条件がついたので、処理量を20~40 ml, 30~50 ml, などと変えて検討してきた。今回は効果確認の意味で、20~40 mlの定植前全面土壌処理を行い、岩手園試・福島園試いわき支場・長野野菜花き試・広島農試・長崎総農試が担当した。その結果20~40 mlで実用性が再確認された。従って前・前々回の試験と合わせ、標記の内容で実用化可との判定が与えられた。

(3) **SL-55 水和剤** (石原産業): 実用化 (前回判定どおり) - [春~夏まき・露地移植] 定植前日~3日前13~25 g 全面土壌処理。

S-28乳剤と同じく、昭和50年の春夏・秋冬作で実用化の判定を得ている。処理時期が定植3日前であり、は種期も夏まきであったので、その拡張を阻み、効果の確認をしようとした試験である。試験は、岩手園試・福島園試いわき支場・山梨農試・広島農試・鹿児島農試大隅支場が担当し、前回同様のすぐれた結果を得た。各試験場の好適とした薬量には幅があったが、いずれも13~25 gの範囲に収まるものであったので、上記の処理法で実用化可となった。昭和50年春夏作の処理は、定植前日なので、今回の試

験と合わせて、上記のような処理法で実用化の判定が与えられた。

(注) 判定会議の結果発表の折は、司会者が誤って、[夏まき・露地移植] 定植前13~25 g 全面土壌処理、として発表した。上述の理由で次の様に改める。[春~夏まき・露地移植] 定植前日~3日前13~25 g 全面土壌処理。

(4) **SSH-36 液剤** (塩野義製薬): 継続 - 試験年次不足。

酸アミド系のアシュラム20%, ニトリル系のアイオキシニル3%の合剤で、タマネギ・アスパラガスで試験されている。接触および吸収型で、ヒル反応阻害と生育阻害が作用効果で、カタクリグサを除く各種雑草に有効であるが、アカザ科・ヒユ類には効果が劣る。茎葉処理剤なので、土壌の種類による影響をうけない長所がある。定植後・雑草2~3葉期の80~120 ml うね間・株間雑草処理を、北海道道南農試・長野野菜花き試・山梨農試・兵庫農総センター農試が実施した。各場所とも処理の際薬液が付着すると、下葉が変色・枯死すると報じたが、長野で薬量に応じ8~13%減収としたほかは、実害は認められなかった。除草効果は、カタクリグサに効果劣るとした例 (群馬・他では有効)、シロザ・メヒシバの大きなものが残る (長野) との報告のほかは、いずれも有効であった。従って、飛散させないことという条件で、80~120 mlの定植後うね間・株間雑草処理で実用化可との判定が与えられた。しかし、試験年次が不足なので、試験継続となった。

(5) **U-67 水和剤** (日本アップジョン・武田薬品工業): 実用化 (前回判定どおり) - [春~夏まき・露地移植] 活着後25~35 g, うね間・株間土壌処理。

酸アミド系75%の水和剤で、すでに多くの野

菜について実用化の判定を得ている。しかしその後、本剤はきわめて効果の持続期間が長く、後作に入るイネ科作物が、後作用による葉害を受けたとする報告が幾つかあった。そこで、今回の試験は、本剤の効果確認と、後作用の実体を見る為に行われたものである。試験は福島園試いわき支場・群馬園試によって行われた。福島いわきでは、キャベツに対しては生育・収量に異常を認めず、処理区をそのままとして、3ヵ月後にハクサイをは種した。その結果、発芽までは異常なかったが、その後の生育が不良で枯死株が漸増した結果、25g区では約10%の株が収穫できたが、30～35gでは収穫皆無であった。群馬でも処理区にハクサイを直はんしたところ生育が抑制され、35gではほとんど生育しなかった。除草効果については、十分な成績が得られたので、キャベツ用の除草剤としては、実用化可能なことが、再度確認された。ハクサイに対する葉害について検討した結果、両場所ともに意識的に処理区のあとをほとんど耕起せず、ハクサイをは種していることが明らかとなり、正常の耕起と表土の反転を行った場合には、後作用らしいものはないか、あってもきわめて少ないとの説明があった。従って今後は通常の栽培様式と作業の中で、後作用の有無と程度を究明するということになった。

(6) **U-67 粒剤** (日本アップジョン・武田薬品工業) : 実用化 (前回判定どおり) — (春～夏まき・露地移植) 活着後 300～400g うね間株間土壌処理。

前出薬剤の粒剤で、岩手園試と岐阜高冷地農試で試験した。キャベツに対する除草剤としての実用性は今回も確認された。試験の目的である後作用については、岩手の場合ハウレンソウを処理の140日後に、耕起してからは種したと

ころ、葉害を認めなかった。また参考区として、水和剤40gを露地に処理し、マルチをして60日後までおき、ハクサイ・ダイコンをは種したが、いずれも葉害を認めなかった。これに対して岐阜高冷地では、処理96日後にハクサイをは種したところ、発芽は正常であったが初期生育が著しく遅延し、収量も葉量に応じて13～38%減収となった。しかし葉色や草姿には異常を認めずとしている。また、は種5日前に500gを土壌混和しては種した区でも、発芽は正常であったが、以後の生育は完全に停止し、60日後でも本葉の展開10枚以下に止ったとしている。後の場合は別として、岐阜高冷地も、ハクサイのは種は不十分な耕起で行われていることがわかったので、水和剤の場合と同様、一般的な耕種のもとで、さらに後作用を検討するということになった。

3. ハ ク サ イ

(1) **SD-11831 水和剤** (プラナビアン普及会) : 実用化 — [夏まき直はん] は種後15～25g 全面土壌処理。

トルイジン系50%の水和剤で、昭和45年以来多数の野菜で実用化の判定を得ている。ハクサイについては、昭和50年の春夏作で同様の試験が行われ、は種後処理では初年度とみなされて、継続の判定を得ている。今回の試験は、野菜試盛岡支場・愛知農総試園研・岐阜高冷地農試・長崎総農試で行われ、ほかに香川農試が実施中であつた。その結果、ハクサイについては各場所ともに異常なく、除草効果も十分との成績が一致して得られたので、実用化可と判定された。

(2) **トリフルラリン粒剤** (塩野義製薬) : 実・継、実用化 — [春～夏まき直はん] は種後 300～500g 全面土壌処理、継続—葉害の発生条件

について、

トルイジン系50%の粒剤で、乳剤・粒剤の別はあるが、すでに多数の野菜で実用化となっている。ハクサイについては乳剤で混和处理・表面処理の実用化判定があり、今回の試験は剤型に関する確認試験である。福島園試・茨城園試・山梨農試・愛知農総試園研・長崎総農試で、300～500 gのは種後土壌処理が行われた。除草効果については、すでに熟知された薬剤で、今回も再確認された。ハクサイについては、茨城以下長崎までが発芽・生育・収量に異常なしとしたのに対し、福島では全処理区で第1～2本葉がちぢみ肥厚する薬害を認めた。間引きの折の重量にも差があると報告されたが、他場所との間に栽培・生育条件の差は認められず、薬害の原因は解明できなかった。品種間差異等についても明らかでないので、乳剤での成績も考慮して、実・継の判定を与え、薬害の発生について、さらに試験を継続することとなった。

4. レ タ ス

(1) SSH-36 液剤 (塩野義製薬) : 継続—試験年次不足。

前出薬剤であって、岩手園試・長野野菜花き試・山梨農試岳麓分場・岐阜高冷地農試が、80～120 mlの生育期雑草(雑草2～3葉期)処理を実施した。その結果、レタスの生育・収量については、薬液が付着した場合に減収することが報告されたが、カバーなどを装着することによって回避の可能なことも確認された。除草効果は、一旦除草後処理の場合、草種の別なく認められるとするもの、アカザ・スベリヒユに効果なく実用性疑問とするもの、などにわかれ、一致した見解が得られず、試験年次の不足などもあって、試験継続となった。

5. ネ ギ

(1) S-28 乳剤 (住友化学) : 実・継, 実用化—〔本畑春まき移植〕活着後20～40 ml全面土壌処理, 継続—薬害の発生条件について。

前出薬剤の、用途拡大試験である。試験を行ったのは、埼玉園試・山梨農試八ヶ岳分場・愛知農総試園研・鳥取野菜試西伯分場・大分農技センターで、20～40 mlの活着後全面土壌処理が行われた。ネギについては、埼玉が濃度に応じた生育抑制の傾向(観察的)ありとしたほかは、各場所とも異常を認めず、除草効果については、有効薬量についての違いを除いて、各場所とも十分と判定した。したがって上記のような評定であったが、ネギについて初年度の試験であるため、すでに実用化の認められているタマネギについての試験からの拡大(いわゆるわたり)を認めるかという点が論議された。出席者の間で論議された結果、このケースでは可との判定が下され、上記のような判定となった。

(2) SAP・プロメトリン乳剤 (日本農薬) : 実用化—〔本畑春まき移植〕活着後40～80 mlうね間土壌処理。

有機リン系のSAP 50%と、トリアジン系のプロメトリン 5%からなる乳剤で、苗床については、50～60 mlのは種後全面土壌処理で登録されている。今回は用途拡大の試験であって、栃木農試佐野分場・埼玉園試・山梨農試八ヶ岳分場・鳥取野菜試が試験を実施した。ネギには栃木佐野で薬液付着により葉の先端が枯れるという実害のない症状が出たほか異常なく、除草効果は、やや短いとの意見もあった(埼玉・山梨八ヶ岳)が、土寄せまでの雑草対策としてみれば十分という判定が多く、結論的には上記の様な判定となった。薬量については、全般に多いほうがよいとの判断が多かった。

6. タマネギ

(1) **DAC-893 水和剤** (中外製薬・昭和ダイヤモンド): 実・継, 実用化—〔寒地・寒冷地, 苗床春まき・ハウスマルチまたは無マルチ〕は種後50~100 g 全面土壌処理, 継続一葉量(低葉量の効果)および覆土の厚さ・土質と薬害について。

安息香酸系75%の水和剤で, すでにタマネギの苗床については, 秋まきについて実用化の判定を得ている(昨年度)。今回は寒地・寒冷地での春まきについての用途拡大試験である。実施したのは, 寒地の北海道農試・北海道中央農試・同道南農試と, 寒冷地の青森畑作園試である。50~100 g のは種後土壌処理を行ったところ, 北農試では定植前に高葉量で実害のない葉先きの枯れあがりがあり, 北海道中央ではマルチ区に比べて発芽歩合・苗の生育が劣る, 同道南では発芽率の減少と良苗率の低下が報告された。これに対して青森畑作では発芽・生育に異常がなかった。除草効果は, ノボロギク・ヤチイヌガラシ・スズメノカタビラなどにやや効果が劣るということがあったが, 全体に満足すべきものということになった。以上の結果および寒地における昨年の試験結果からみて, 上記の継続諸事項に指摘されているような問題点が残るが, タマネギ苗床に適当な薬剤の不足する現状からみて, 実害のないところでは使用を認めていくという意味で, 実・継の判定が与えられた。

(2) **DBN粒剤** (兼商): 継続—試験年次不足。

ニトリル系6.7%の粒剤で, 水田・イグサ・ムギなどに利用されているカソロンである。非ホルモン・移行型, 土壌中の残効性は中~長, 移動性も大きいので, 土性との関係に注意が必要である。広葉雑草に対する効果が, イネ科雑

草に対する場合より大きく, 雑草の発芽時から1~3葉期まで有効なので, 土壌・茎葉両処理が可能である。低温時に効果大との特性もある。野菜についての試験は今回が初めてで, 寒地での春まき移植栽培での, タマネギ茎葉倒伏期全面雑草処理が行われた。試験を実施したのは, 北海道農試と同中央農試である。タマネギの収量には影響なく, 除草効果は生育中の雑草には無効, 土壌処理の効果大で50日以上持続, スギナに有効で地下部も残根が減少などとの成績が得られたが, 試験年次不足で継続となった。

(3) **HSW-763 水和剤** (北海三共): 継続—試験年次不足。

未公開の成分15%とCIPC25%の混合剤で, 非ホルモン・接触吸収移行型薬剤である。混合による効果の増進と薬害について検討された。場所は北海道中央農試と同北見農試である。30~40 g の活着後全面処理の結果, 中央では40 g で葉身の枯死と初期生育の遅延とがあったが実害はなく, 同北見では全く異常なしとしている。除草効果は全般的に高いが, 中央ではイヌホウズキとナズナ・スズメノカタビラに対し, また北見ではイネ科雑草に対して, おのおの効果がやや劣るとしている。以上の結果, 有望ではあるが, 初年度なので試験継続という判定となった。

(4) **アイオキシニル乳剤** (塩野義製薬): 実・継, 実用化—〔寒地・春まき移植本畑〕6月上旬まで雑草2~3葉期7.5~15 ml 全面雑草処理, 継続一葉害の発生条件について。

ニトリル系3.0%乳剤で, 古くから知られている薬剤である。昨年春夏作で同様の試験が行われており, 今回は北海道中央農試と同北見農試が実施した。中央農試では処理1~2日後に葉身先の枯れがみられたが実害はなく, 同北見

では異常を認めなかった。除草効果は、イネ科雑草に対してやや低い、その他の草種には高く、実用的に可と判断された。従って2年間の成績から実用化可能との判定であったが、昨年度処理時が高温であると薬害の出る傾向がみられたので、その点について再検討との条件がつけられた。

(5) **KWH-751 水和剤** (協和醗酵工業) : 継続 - 試験年次不足。

成分未公開50%の水和剤で、昭和50年の秋冬作で検討されている。非ホルモン型剤で、広葉雑草への効果がイネ科雑草へのそれにまさるといふ傾向があり、永年生雑草には効かない。殺草効果の発現が、処理5~7日後になる特性があり、高温時にはそれが早められる。試験は、北海道農試・同中央農試・同北見農試が行ったが、タマネギには各場所とも異常なく、除草効果は、タデ・スズメノカタビラにやや劣るほか、申請どおりイネ科雑草への効果がややおちていた。試験年次不足で試験継続となったが、本剤は通常のノズルではつまりやすい欠点があり、目下改善中とのことであった。

(6) **NIP+CIPC 現地混合乳剤** (東京有機化学工業・三洋貿易) : 実用化 - [寒地・春まき移植本畑] 活着後NIP40~80ml+CIPC15ml全面土壌処理。

周知2剤の混合による相乗効果を阻ったもので、昨年度も試験されている。前項と同様の試験場が担当して、NIP40~80ml+CIPC15mlの活着後全面土壌処理が行われた。その結果、北農試ではNIP80ml区で、処理5日目ごろから葉に白斑を生じ、葉身がわん曲したが、実害はなかった。中央でも80ml区で退色があったが間もなく回復し、収量に差はなかった。除草効果はノボロギク・ナタネに対する効果が劣ったほ

かシロザ・アカザ・イヌホウズキにも若干劣ったが、薬量が多いと実用的には差しつかえない程度に有効であった。以上の結果上記の様な判定が与えられた。

(7) **NK-049 水和剤** (日本化薬) : 継続 - 試験年次不足。

ベンゾフェノン系50%の水和剤で、秋まきタマネギについては、活着後80gおよび春期雑草発生前80~100gの反復全面土壌処理で実用化となっている。今回は寒地への適地拡大試験で、北海道農試・同中央農試・青森畑作園試が担当した。処理は60~100gの定植後全面土壌処理であって、北農試が100g区でやや減収かとしているほかは異常を認めなかった。除草効果は、アカザ・ノボロギク・ナタネに劣り、タデ・ハコベ・スズメノカタビラにもやや不足するようであったが、100gを用いれば効果が高まった。その結果、北農試では効果の点で実用性疑問とし、他の2場所では実用性ありと、意見が分かれたが、試験年次が不足なので、試験を継続することになった。

(8) **S-28 乳剤** (クレマート研究会) : 実用化 (前回判定どおり) - [寒地春まき移植本畑] 活着後20~40ml雑草発生前~始期全面土壌処理。前出の薬剤で、効果の確認試験を北海道農試・同中央農試・同北見農試が実施した。タマネギには全場所異常なく、除草効果については、中央農試が昨年やや劣るとしたほか、ほぼ前回同様の結果が得られ、再度実用性は確認された。

(9) **SKH-01 水和剤** (シエル化学・石原産業) : 実用化 (前回判定どおり) - [寒地春まき移植本畑] 活着後10~20g全面土壌処理。

トリアジン系50%の水和剤で、昭和47年秋冬作から、とびとびではあるが、タマネギ・アス

パラガスで試験が行われ、昨年度寒地での春まき本畑で実用化となっている。今回は効果の確認試験で、北海道農試と同北見農試が担当し、低薬量でアカザ・ヒエに対する効果が劣るとしたほか十分な除草効果を認め、実用性を再確認した。

(10) **SL-55 水和剤** (石原産業) : 継続 — 試験年次不足。

前出の薬剤で、タマネギについては、秋まき移植の本畑で実用化の判定を得ており、今回は適地拡大の試験である。北海道農試・同中央農試・青森畑作園試で、10～15 g の定植前または活着後の全面土壌処理が行われた。各場所とも、タマネギに対するマイナスの影響は認めなかったが、低薬量では除草効果不足による雑草害で減収した。すなわち、除草効果については、北農試が広葉雑草特にハコベに対する効果が著しく劣ること、特に定植前処理の劣ることを指摘し、10 g では無処理区と同様としたほか、中央では処理時期に処理量に関係なく効果不足、青森畑作でも定植前処理の効果不足によるハコベ・アカザ・スベリヒユの発生を報告している。もともと本剤は広葉雑草に対する効果が、イネ科雑草への効果に劣るのではあるが、ハコベ・アカザは有効草種の中に教えられているので、寒冷地で適用する場合の、薬量と処理時期にも問題があったものと認められる。従って、試験年次も不足するので、薬量と除草効果の点を中心に、試験継続ということに判定された。

(11) **YH-90 水和剤** (山本農薬) : 継続 — 試験年次不足。

成分未公開の A 剤 20% と同 B 剤 5.0 の混合水和剤で、昭和 50 年秋まき移植栽培で試験されている。北海道農試・同中央農試・同北見農試が、40～60 g の定植後全面土壌処理を行った。タマ

ネギについては生育・収量とも異常を認めなかったが、除草効果は 40 g では不足、50～60 g で高いと認められた。しかし効果の持続期間は十分でなかった。従って高薬量で実用化可か有望というのが一致した結果であったが、試験年次が不足なので、継続と判定された。

7. アスパラガス

(1) **SKH-01 水和剤** (シエル化学・石原産業) : 実用化 — (寒地・寒冷地、ホワイト本畑) 培土後又は培土崩し後雑草発生前～始期 10～20 g 全面土壌処理。

前出薬剤で、北海道中央農試・同道南農試・岩手園試高冷地分場が、10～20 g の培土後又は培土崩し後雑草発生前始期全面土壌処理を行った。各場所とも生育に異常を認めず、道南では植物体への散布を行ったが異常なかったとしている。除草効果は、培土後と培土崩し後とで異なるが、培土後処理では、北海道の場合 20 g でもツクサ・イヌホウズキ・イヌガラシ・スギナに効果が劣り、岩手高冷地では反対に 10, 20 g とも効果大であった。培土崩し後処理では、北海道の場合は、培土後と大差なし、岩手高冷地では、培土後よりは効果が低下したが、10 g でも有効ということになっている。道南の場合は、処理後乾燥状態が 2 週間程度つづいているので、そのために除草効果が低下したと思われるが、(昨年は湿潤条件下で効果大)、草種によっては効果の劣るものがあるので、十分注意が必要とされた。以上の結果から、上記のような実用化可の判定が与えられた。

8. トマト

(1) **NTN-80 水和剤** (日本特殊農薬製造) : 実用化 — (露地移植) 定植後 25～45 g うね間

株間土壌処理。

有機リン系60%の水和剤で、昭和48年以来、多数の野菜の各種作型で実用化となり、S-28とならんで、きわめて汎用性の高い薬剤である。トマトについては、昭和50年度春夏作で、露地移植栽培での利用が検討され、試験年次不足・薬量について再検討となっている。これは、この年は30～50gの定植後うね間株間土壌処理が行われ、高い除草効果を認めたが、後作用の点を考慮し、かつは低薬量ほど望ましいという考えから、薬量を下げて再検討ということになったのである。従って今年度は、25～45gの同様処理が行われた。試験を実施したのは野菜試験岡支場・茨城園試・長野農総試中信地方試・岐阜農試・佐賀農試であって、トマトについては各場所とも異常なし、除草効果もイヌガラシ・タカサブロウにやや不足（佐賀）とされたほか、各場所ともきわめて卓効ありとし、その持続期間も45～60日以上という結果であった。従って2か年の結果から、上記のような実用化可能の判定が与えられた。

(2) **SL-55 水和剤**（石原産業）：実用化―〔露地又はトンネル移植〕定植前日～3日前13～25g 全面土壌処理。

前出薬剤で、トマトについては、昭和50年春夏作で試験が行われ、試験例数不足で継続と判定されている。今回の試験は作型をしぼって、定植前処理を行うもので、長野野菜花き試・佐賀農試（以上露地）、埼玉園試・東京農試・岐阜農試（以上トンネル）が実施した。トマトについては、岐阜が処理面と接触した場合実害のないか変ありとしたほか、各場所とも異常を認めず、除草効果は、ノビエ・イヌガラシにやや劣るほかは、各場所とも顕著としている。本剤は、昭和50年度春夏作において、定植前日お

よび3日前処理で実用化可の成績をおさめているので、今年度の試験と合わせて、上記のような処理法で、実用化の判定が与えられた。

（注）判定会議の結果発表の折は、司会者が誤って、〔露地又はトンネル移植〕定植前13～25g 全面土壌処理、として発表したのが、上述の理由で次の様に改める。〔露地又はトンネル移植〕定植前日～3日前 13～25g 全面土壌処理。

9. ナ ス

(1) **S-28 乳剤**（クレマート研究会）：実用化―〔露地マルチ移植〕定植前マルチ前20～40ml 全面土壌処理。

前出薬剤で、ナスについての試験はないが、トマトで実用化の判定を得ている（各種作型）。今回は露地マルチ栽培についての試験を、栃木農試・埼玉園試入間川支場・東京農試・新潟園試・愛知農総試園研が実施した。すでに評価の定まっている薬剤であるが、ナスについては、愛知園研でやや生育の抑制あり低収と報告されたほかは異常なく、除草効果も愛知で原因は不明であるが効果劣るとされたほか、各場所とも顕著な成績を収めている。したがって、トマトからナスへの作物のわたりを認めるかという点が論議されたが、担当者全員が承認し、愛知の担当者からも今年の結果は薬剤に原因はないとの表明があり、上記のような判定となった。

(2) **SSH-36 液剤**（塩野義製薬）：継続―試験年次不足。

前出薬剤で、80～120mlの定植後うね間株間雑草（2～3葉期）処理を、埼玉園試入間川支場・東京農試・新潟園試・富山農試砺波園芸分場・兵庫農総センター但馬分場が実施した。ナスに対する試験は初めてであるが、天候不順で活着のわなかった兵庫但馬以外はナスの生育・

収量に異常なかった。除草効果は対照のグラモキソンに比べてやや遅効的であり、カヤツリグサに対して特異的に劣るなどの点が注目されたが、ほぼ実用化可能との結論であった。しかし試験年次が十分でないので、試験継続と判定された。

10. キュウリ

(1) **SL-55 水和剤** (石原産業) : 継続 — 年次により試験結果不一致につき。

前出薬剤で、10～20 g の定植 3 日前全面土壌処理を、野菜試久留米支場・富山農試砺波園芸分場・鳥取野菜試で行った。同様の処理が昨年にも実施されており、2 年目に劣るが、昨年は作型ごとの試験例数不足も問題となった。今年は、野菜試久留米で、トンネルの場合葉緑の白変する実害のない薬害が認められたほか異常なかった。除草効果は、各場所とも十分と認め、草種による違いもなかった。したがって久留米が薬害の点で保留としたほかは、実用化可との判定に近かったが、昨年度の同一作型の成績がきわめて劣り、その原因が明らかでなかったことが指摘され、2 年を通覧すると安定した効果とは判定できないので、さらに試験を継続することになった。

11. スイカ

(1) **ANK-553 乳剤** (ANK-研究会) : 継続 — 試験年次不足。

トルイジン系 30 % の乳剤で、昭和 48 年春夏作以来、多くの試験が野菜で行われ、キャベツ・レタス・タマネギ・ニンジン・イチゴの各種作型で実用化となっている。しかしナス科およびウリ科の野菜については、全く試験例がない。今回の試験は、露地マルチ移植栽培について、

20～40 ml の定植前マルチ前全面土壌処理として行われ、山形園試砂丘分場・茨城園試・愛知農総試園研・香川農試・熊本農試園芸支場が担当した。その結果スイカの生育・収量については、山形砂丘が高薬量で生育抑制を認め、愛知が著しい薬害ありとしたほかは、正常であった。(愛知については、処理によるものと断言できないとの説明あり)、また除草効果は、いずれの場所とも草種を問わず顕著で、低薬量でも可とするものが多かった。したがって、判定としては、実用化可の方向であったが、ウリ科作物についての実績が全くないので、作物間のわたりについての申し合わせによって、試験継続ということになった。

(2) **M&B-9057 液剤** (塩野義製薬) : 実用化 (前回判定どおり) — [トンネルマルチ移植] 定植前マルチ前 100～120 ml 又は同 7 日前 80～100 ml 全面土壌処理。

カーバメート系 37 % の液剤で、すでに昭和 50 年春夏作で、上記処理法について実用化の判定を得ている。その折、薬量と処理時期についてという継続条項がつけられた。これは処理時期が、定植前マルチ前 3 日から 7 日にわたっており、これと薬量 80～120 ml が組み合わせられていて、必ずしも最適な組み合わせが明らかではなかったためである。今回の試験は薬量を 100 ml と定め、定植とマルチを整地後・3 日後・7 日後とする方法で効果を検討した。その結果場所によって最良とする処理日は必ずしも同じでなかったが、いずれも上記の処理法の範囲に入るので、100 ml の定植前マルチ前～同 7 日前の全面土壌処理で実用化ということになった。

(3) **NTN-80 水和剤** (日本特殊農薬製造) : 実用化 — [露地マルチ移植] 定植前マルチ前及び敷わら前各 25～50 g 全面土壌処理。

前出の薬剤で、キュウリで実用化の判定を得ているので、用途拡大の試験が行われた。試験を担当したのは山形園試・茨城園試・新潟園試内野試験地・岐阜農試・鳥取野菜試である。スイカの除草剤については、は場の土壌特性、かん水の有無が第一に問題となるが、同時にその地域・作型での、施肥の方式も大きな問題となる。たとえば、施肥の位置、追肥の位置と回数、マルチの有無などがそれであるが、いずれも地域によって必ずしも一様ではない。前年度の試験においてもこの点が討論されたが、結局その地域での慣習に除草剤の処理を合わせるという、きわめて常識的な結論になった。なかには除草剤とマルチの組み合わせによって、従来と異なる除草の方式を設定し、それをもとにして施肥の方式までも変えるという例もあったが、作業体系が他の要因によって決定されている場合には、必ずしもその様な変更が自由でないこともあり、一般論としては上のようなことになる。今回の処理法は、定植前マルチ前と、追肥後の敷わらをする前の2度行うものであるが、2度目の処理は同一の場所に行われるわけではないので、‘反復処理’という表現は用いなかった。試験の結果、スイカに異常を認めず、除草効果も、茨城でメヒシバ・カヤツリグサにやや不足としたほかは各場所とも顕著としている。したがって、上記の処理法で実用化可との判定が与えられた。

(4) **U-67 水和剤** (日本アップジョン・武田薬品工業) : 実・継, 実用化 — (露地 マルチ移植) 定植前マルチ前および追肥後30~35g 全面土壌処理, 継続一薬量と除草効果・薬害の地域性および追肥後の処理方法について。

前出の薬剤で、昭和50年春夏作で上記の判定が与えられており、今回は継続部分の追試と効

果の確認が行われた。担当したのは、新潟園試内野試験地・香川農試・鹿児島農試大隅支場である。新潟内野では、活着・生育のおくれが明らかで、後作のダイコンにも著しい生育抑制があったとしているが、他の2場所では異常を認めずとした。すなわちこのことから、作用性に地域による違いのあることがわかる。除草効果についても、新潟内野はメヒシバに対する効果が十分でないとしたのに対し、香川では十分、鹿児島大隅は対照薬剤に劣るので再検討としている。以上の結果から、本剤の利用に当っては土壌の性質を十分吟味することと、後作用について注意の必要なことが、改めて認識された。

(5) **U-67 粒剤** (日本アップジョン・武田薬品工業) : 継続 — 試験結果不一致。

前項薬剤の剤型変更で、300~500gの定植前マルチ前全面土壌処理を、山形園試・新潟園試内野試験地・鳥取野菜試・香川農試・鹿児島農試大隅支場で実施した。山形では初期生育の抑制があったが、やがて消失して実害なし、新潟内野は定植50日後まで生育の抑制が影響して減収と報告されたが、その他の場所では異常なかった。山形では後作にムギをは種したところ、発芽しても枯死するものが多く、著しい減収となることを観察した。除草効果については、山形では除草効果なし、その他の場所では効果はありとしているが、有効薬量がきわめて不一致という結果であった。したがって、薬害の点と除草効果についての不一致を理由に、試験継続と判定された。特に後作用については、前水和剤とならんで、十分検討するようにというのが、担当者の要望であった。

12. 露地メロン

(1) **M&B-9057 液剤** (塩野義製薬) : 継続—

試験結果不一致・効果不足につき。

前出の薬剤で、80～120 mlの定植前全面土壌処理を、北海道中央農試・山形園試砂丘分場・長野野菜花き試・愛知農総試園研・熊本農試園芸支場が実施した。メロンについては各場所とも異常を認めなかったが、除草効果の判定が著しく食い違い、北海道中央・山形砂丘では効果が明らかでなく、熊本園芸では薬量不足とし、長野が一応効果を認めたものの、愛知でも120 mlが有望の程度としている。したがって除草効果の成績不一致につき、試験継続と判定された。

(2) S-28 乳剤（クレマート研究会）：実・
続、実用化 —〔露地マルチ移植〕定植前マルチ前20～40 ml全面土壌処理、継続 — トンネルマルチ移植栽培について。

前出薬剤で、ウリ類での用途拡大試験である。20～40 mlの定植前マルチ前全面土壌処理を北海道中央農試・山形園試砂丘分場・長野野菜花き試・愛知農総試園研・熊本農試園芸支場が実施した。その結果、山形砂丘・愛知で高薬量で実害のない軽度の生育抑制を認めたほかは異常なく、除草効果も低薬量で不足との例（長野）はあったが、ほぼ十分との結果であったので、上記のような判定が与えられた。しかし作型については、現実には多いトンネルマルチが行われていないので、この作型についての試験実施を求めることになった。

13. カンピョウ

(1) トリフルラリン粒剤（塩野義製薬）：継続 — 試験例数不足。

周知の薬剤であるが、すでにスイカ・キュウリで実用化例をもっているため、用途拡大試験である。栃木農試栃木分場で、400～500 gの定植キャップ後全面土壌処理を行った。結果は

カンピョウに異常なく、除草効果もカヤツリグサ・スカシタゴボウに対する効果がやや不足したほかは十分であり、高薬量で実用化可との判定であった。しかし何分にも試験例数が一つであり、初年度のこともあって、さらに例数を増す意味で継続になった。カンピョウを正式に試験対象としている場所は栃木分場のみで、その点からはないものねだりになりかねないが、次回には現地試験も組み入れて、なるべく他作物に近い試験例数を重ねようということになった。

14. イチゴ

(1) ANK-553 乳剤（ANK研究会）：継続 — 試験年次不足。

前出薬剤のイチゴ親株床への適用である。本剤はすでに、イチゴ本畑については、実用化の判定を得ており、適用拡大としてよいようにもみえるが、イチゴの苗床は、その期間が長くてしかも雑草の繁茂する時期に当たっていること、雑草防除には反復処理が必要になることが多いが、ランナー発生と処理時期とが重なりやすいことなどの点で異質であり、今回の試験も新規とみなされた。試験を実施したのは、栃木農試栃木分場・埼玉園試・富山農試砺波園芸分場・静岡農試・兵庫農総農試で、20～40 mlの活着後全面土壌処理が行われた。各場所で供試した品種が異なるが、栃木農試栃木分場では‘ダナー’を用いて高薬量でランナー発生不良、埼玉でも‘ダナー’でややランナーが少いとしている。これに対して‘宝交早生’を用いた富山砺波では、処理後一時葉のい縮があったがランナーには異常なし、同じく兵庫でも処理葉の白変があったが実害なし、静岡では‘宝交早生’で全く異常なしとしている。除草効果については、カヤツリグサ・トキンソウ・スカシタゴボウに効果の

ないこと、持続期間が短いところで20日、長いところでも45日程度と十分でなく、しかもその後の雑草繁茂がきわめておう盛との結果となっている。これらの点から反復処理が必要としている場（埼玉）もあり、さらに試験を継続することとなった。

(2) **CIPC・CP-50144 乳剤**（日産化学工業）：実・保留，実用化－〔寒地露地マルチ〕生育期15～25ml全面土壌処理，保留－反復処理については，試験結果をまっけて判定。

北海道中央農試原々種農場と同道南農試とが試験を実施中である。処理は，定植後全面土壌および春季雑草発生前の反復土壌処理であって，第1回目の処理については，すでに道内で実用化可の判定が与えられている。従って第2回目処理が行われた後に判定することになった。両場所ともに第1回処理による異常は認めていない。

15. ダイコン

(1) **SD-11831 水和剤**（プラナビアン普及会）：実・継，実用化－〔春まき露地〕は種後15～25g全面土壌処理，継続－葉害の発生条件について（土壌）。

前出の薬剤で，昨年も同様の処理による試験が実施されている。は種後15～25g全面土壌処理を，福島園試・埼玉園試入間川支場・長野中信地方試・富山農試砺波園芸分場・兵庫農総農試但馬分場が実施した。ダイコンの品種は，福島が‘春まき美濃早生’埼玉入間川が‘渡辺春早生’で，他の3場所は‘夏美濃早生2号’であった。他の場所では発芽・生育に異常を認めなかったが，富山砺波では，処理の翌日104mmの雨が合ったためか，地ぎわ部に著しいくびれの発生が認められ，商品価値を失うほどであった。除草効果は，草種を問わず認められ，富山

砺波を除き実用化可との判定が与えられている。地ぎわのくびれについて検討が行われたが，最終的には土性・地質によるのではないかという結論となり，この点について試験継続ということになった。

16. ニンジン

(1) **NK-049 水和剤**（日本化薬）：実用化－〔春まき露地〕は種後60～100g全面土壌処理。

ベンゾフェノン系50%の水和剤で，昭和48年秋冬作から各種野菜について試験され，タマネギで実用化となっている。非ホルモン・吸収移行型の除草剤で，クロロフィルの生成を阻害し，タデに対する効果がやや劣るが，イネ科・広葉の1年生雑草に有効である。雑草の発生前から発生直後にかけて効果を示し，土壌中の残効は冬で極長，夏は長～中として申請されている。60～100gのは種後全面土壌処理を，岩手園試・福島園試・埼玉園試入間川支場・山梨農試岳麓分場・大分農技センターで実施した。ニンジンについては昭和50年度春夏作で同様の試験を実施しており，今回は2回目である。結果は，各場所ともニンジンの発芽・生育に異常なく，除草効果も顕著で，とくに効果の持続期間が50～60日（岩手・山梨岳麓），70日（埼玉入間川）と長いので，十分実用化可能との判定が与えられた。

(2) **S-28 乳剤**（U-クレマート研究会）：実・継，実用化－〔寒地〕は種後30～50ml全面土壌処理，継続－葉害の発生条件について。

前出の薬剤で，ニンジンにはすでに実用化の作型があるが，今回は寒地への適地拡大である。北海道農試・同中央農試・同道南農試が，30～50mlの，は種後全面土壌処理を実施した。その

結果、ニンジンに対しての影響は、北農試・同中央では認めず、道南農試では、発芽日のおくれる個体がみられるが、間引きで調節可能なので無視できるとの結果であった。除草効果は、ノボロギク・ツクサに対する効果が各場所とも不十分であったが、効果の持続期間は北農試で40～50日くらい、他場所も薬量をあげれば十分な期間有効という成績であった。したがって、道南でみられた薬害らしきものについて、さらに究明することとし、上記のような処理法で実用化可と判定された。

17. ゴボウ

(1) SD-11831 水和剤（プラナビアン普及会）：継続 — 試験年次不足（薬害）。

前出薬剤の用途拡大試験であるが、根菜についてはニンジンの試験があるのみのうえ、従来の経過からゴボウはともすると特異な反応をすることがあるので、今回の試験は新規ということになった。試験を担当したのは福島園試・埼玉園試入間川支場・大分農技センターで、茨城園試は現在実施中である。処理は15～25gのは種後全面土壌処理で、福島・埼玉入間川では異常を認めなかったが、大分では各処理区の本葉1～2枚に、い縮・黄変を生じたが、実害はなかった。除草効果は、広葉雑草へのそれがやや低い傾向はあったが、各場所とも十分と認めた。茨城の中間報告も特別の事項はないので、上記のような実用化の判定が与えられた。

18. サトイモ

(1) SD-11831 水和剤（プラナビアン普及会）：継続 — 試験年次不足（処理方法・反復処理）。

前出薬剤であって、15～25gの植付後全面土

壌処理が行われた。担当したのは、栃木農試・千葉農試・愛知農総試験園研・鹿児島農試大隅支場であるが、本剤は根菜類についての試験例がないので、今回は新規試験である。その結果サトイモについては異常なかったが、除草効果については不一致がみられた。すなわち、栃木では処理後30日で雑草の発生をみたが、生育は抑制され、その期間は40～60日であった。千葉では広葉雑草に対する効果が不足で、特にクワサ・エノキグサに対して劣る、愛知では効果の持続期間が約30～35日程度で不足、鹿児島大隅では満足な効果としている。したがって、新規試験であることと、除草効果の持続期間の点から、さらに検討することになった。特にマルチとの組み合わせや反復処理の検討が求められた。

(2) トリフルラリン粒剤（塩野義製薬）：実用化 —〔露地マルチ〕植付後マルチ前400～600g 全面土壌処理。

前出薬剤で、サトイモについては乳剤のマルチ前20～30ml全面土壌処理で実用化となっている。したがって今回は剤型についての試験であるが、福島園試・栃木農試・千葉農試・愛知農総試験園研・鹿児島農試大隅支場で400～600gの全面土壌処理を行ったところ、サトイモには生育・収量に異常なく、除草効果はノゲン・カヤツリグサ・クワサ・キク科雑草への効果がやや劣ったほかは十分で、その期間も約40～50日で十分との結果を得た。したがって上記の実用化が認められた。

B. 花き・花木類

1. キク（切花用）

(1) SD-11831 水和剤（プラナビアン普及会）：継続 — 試験年次不足。

前出薬剤の用途拡大試験で、キクについては新規である。定植後15～25 gの全面土壌処理を、千葉農試・静岡農試遠州分場・福岡園試が実施した。キクの生育・収量には異常なく、除草効果も各場所で顕著であり、抑草期間は約40日程度、カヤツリグサに著しい効果ありなどの指摘があった。したがって実用性は高いが、キクに対する試験は新規なので、さらに継続検討することになった。特にキクには多数の品種があるので、その点の配慮が必要という意見が付け加えられた。

2. 花 木 類

(1) B-3015 P粒剤 (クミアイ化学工業) :
実・継, 実用化 - [苗畑露地] ツツジ・ツバキ
床かえ後 400～600 g 全面土壌処理, 継続-幼苗・その他の樹種および後作用について,

カーバメート系のベンチオカーブ50%と、トリアジン系のプロメトリン5%の混合粒剤で、前者のもつイネ科雑草に対する効果および長い残効性と、後者の広葉雑草に対する効果、多湿・高温下での効力とを組み合わせようとしたものである。花木類の苗床用除草剤開発の一端を占めるもので、今回は2年目に当たっている。試験を実施したのは、埼玉園試・三重農技センター・福岡農試畑作試験地で、400～600 gの床かえ後の全面土壌処理である。結果は、埼玉(5年生ツバキ, 4年生ツツジ), 三重(1年生サツキ), 福岡畑作(2年生クルメツツジ)ともに、薬害症状・生育の異常を認めず、除草効果も400 gでやや不足(三重)という例もあったが、それ以上では各場所とも十分という結果であった。したがって上記のような判定となったが、すでに再三述べているように、花木類に対する試験は息の長いものであって、結果の判定

も単年度を行うことが必ずしも適当とはいえず、本来は苗木の定植後の変化まで確める必要がある。このような点については、申請者の側においても十分な認識があると思われるので、十分な検討を期待したい。今回の判定は、その意味では今回限りのものであって、将来の安定性までを示すものではないことを改めて付記しておきたい。

(2) HW-920 微粒剤 (保土谷化学工業) :
実・継, 実用化 - [成木露地] ツツジ・ツバキ・サンゴジュ 成木植付後 750～1,000 g 全面雑草処理 (草たけ20 cm まで), 継続-その他の樹種および後作用について,

尿素系3%微粒剤, 周知のDCMUである。すでに本剤は各種作物で試験されてきたが、残効性のきわめて長いことなどから、野菜ではあまり実用に供されることはなかった。残効性と非選択的な作用性によって、花木類には好適として改めて検討されたものであるが、昨年にひきつづいての試験である。750～1,000 gの生育初期～生育中全面雑草(草たけ20 cm まで)処理を、前項と同じ場所が実施した。埼玉(5年生ツツジ, 4年生ツバキ), 三重(1年生サツキ), 福岡畑作(サンゴジュ)ともに、薬害症状・生育の異常を認めず、除草効果は埼玉・三重では顕著であり、その期間も埼玉で55日以上と長かった。しかし福岡畑作では750 gでは不足で、1,000 gが必要としている。以上の結果から、上記のような判定が与えられたが、薬剤の後作用などについての問題は、B-3015P粒剤の場合と同様である。

(3) NTN-80 水和剤 (日本特殊農薬製造) :
実・継, 実用化 - [苗畑露地] ツツジ・ツバキ 植付後40～50 g・2～3回全面土壌処理, 継続-苗令と薬量, その他の樹種および後作用

について。

前出の薬剤で、苗床用除草剤開発試験の一つである。試験を実施したのは、前2剤と同様であり、埼玉（5年生ツツジ、4年生ツバキ）では、40、50gの植付後および生育中除草後の1～3回処理、三重（1年生サツキ）では、40、50gの植付後処理を含む3回処理、福岡畑作（2年生クルメツツジ）では40、50gの3回反復処理（生育中は除草後処理）を行った。その結果各場所とも薬害症状は認めなかったが、福岡畑作では、薬量の多い3回処理で、樹害増大率の低下が認められた（ただし、薬害によるとは確認されていない）。除草効果については、すでに定評のある薬剤であるが、50gの3回処理を行うと、170日後にも抑草効果がある（埼玉）、40gの3回、50gの2～3回処理は効果大（三重）などと、薬量・回数に関するコメントがつけられている。したがって、本剤も前2剤と同様の問題を含んではいるが、2か年の成績については十分実用に耐えることが明らかにされたといっていよい。処理時期を回数のみで示したのは、雑草の回復具合に応じて処理するということで、回数は安全限界を示したものと理解される。

(4) **SD-11831 水和剤**（プラナビアン普及会）：継続 — 試験年次不足。

前出薬剤で、神奈川園試相模原分場（ツツジ・イヌツゲ・ニオイヒバ・ハナミズキ・ツバキ）、兵庫農総農試（ツバキ・カイズカイブキ・マメツゲ・シャリンバイ）、福岡農試畑作試験地（クルメツツジ）が、各花木の幼苗を用いて生育期20～30g全面土壌処理を行った。処理日数は試験場によって、1～3回と一様でないが、神奈川相模と兵庫では、生育の抑制・異常を認めず、福岡畑作では3回処理区で、樹容積の増大率低

下が認められ、要注意との指摘があった。

検討会においては、本剤を含めた花木類の処理に関係して、①幼苗・苗木・成木の定義（必ずしも苗令のいかんと苗木・成木の呼称とは一致せず、後者の呼称は取引上あるいは利用に当てのもののなので不正確との指摘あり）、②生育に対する障害の有無・程度の検定法あるいはその程度の表示法（樹容積増大率とは何か？、これを利用するには、基本となる素材の処理前の様相が問題になるのではないかなど）などが討論された。その結果、意外に各試験担当者の理解の程度・内容は異なることが明らかになった。現実の問題としては、困難な事項が多いのであるが、今後は用語の正確な理解を深め、そのつかい方にも注意しようということになった。今回の判定に当たっての、‘成木露地、苗畑露地’などの規定は、それをあらわしている。

(5) **トリフルラリン乳剤**（塩野義製薬）：継続 — 試験年次不足。

前出薬剤で、神奈川園試相模原分場（ツツジ・イヌツゲ・ニオイヒバ・ハナミズキ・レンゲツツジ）、兵庫農総試（ツバキ・カイズカイブキ・マメツゲ・シャリンバイ）、福岡農試畑作試験地（クルメツツジ）が20、30mlの生育期除草後全面雑草処理を行った。結果は、福岡畑作の2回処理区（他は1回）で樹容積増大率の低下が認められたほかは異常なかった。除草効果は、効果の持続期間不足（神奈川相模、25～30日程度）、広葉雑草への効果不足（兵庫）、400gでは効果不足（福岡畑作）などの指摘があり、試験年次不足であるので、さらに薬量をあげることも含めて試験継続と判定された。

(6) **トリフルラリン粒剤**（塩野義製薬）：継続 — 試験年次不足。

前出薬剤の粒剤で、試験を実施したのは、前

項乳剤と同様、処理した花木も同様である。結果は乳剤と全く同様で、初年度の成績としては差を認めなかった。したがって、乳剤同様、処理量をあげる方向で、試験継続という判定が与えられた。

Ⅱ. 除 草 資 材

1. レ タ ス

(1) SD-11831 シート (三菱油化・シエル化学・みかど化工) : 継続 — 試験結果不一致。

本資材は、除草剤添加資剤として開発された第2弾で、昭和47年秋冬作のエンドウをはじめとして、以下48年春夏作、同50年春夏作でレタスが検討されている。昨年度は高冷地の場所で実用性あり、平たん暖地の試験で葉害発生という結果であった。そこで今年は、岩手園試高冷地分場・長野野菜花き試・山梨農試岳麓分場・岐阜高冷地農試において、高冷地夏まきマルチ栽培として試験を行ったのである。SD-11831(プラナビアン)自身は、レタスのトンネルマルチ栽培、露地マルチ栽培などで実用化の判定を得ているので、薬剤としての適性をもっているわけであるが、フィルム添加となると同様にはいかない面がある。今回の試験でも、岩手高冷地は除草効果はあるが、初期生育の促進効果を認めず、長野は初期生育促進・除草効果の点でW N-10を有望、山梨岳麓は除草効果が全くないので実用性なし、岐阜高冷地も葉害はないが、生育促進効果はなく、除草効果も劣って実用性なし、という結果となった。この種のフィルムでは、ほ場表面の均平化、地表面との密着などと処理上の常識として求められる事項が幾つかあるが、今回の場所はいずれもこの点の熟練者であり、以上の注意は十分守ってのことと説明

があったので、結果不一致につき試験継続と判定された。

Ⅲ. 前回未検討除草剤

(1) B-3015 P粒剤 (クミアイ化学工業) : 継続 — 試験年次不足。

今年も試験されている薬剤の初年度試験で、三重農技センター分は検討ずみで、前回成績の間に合わなかった、埼玉園試(4年生ツツジ、3年生ツバキ)、福岡農試畑作試験地(1年生クルメツツジ)の成績である。埼玉では処理による異常を認めなかったが、福岡畑作では、高葉量の500~600gで、樹高生長率・樹容増大率が劣ったとしている。除草効果は、埼玉では400~600gの1~3回反復処理を行い、2~3回の連続処理は葉量を問わず有効、500、600gの1回処理はやや劣り、400g1回はさらに劣るという、処理葉量に応じた結果を得ている。福岡畑作でも500、600gの3回処理で十分、400gではやや不足という結果を得ている。第1年目の試験なので、試験継続になった。

(2) HW-920 微粒剤 (保土谷化学) : 継続 — 試験年次不足。

今年も試験されている薬剤の初年度試験で、三重農技センター分は検討ずみで、前回試験未了の、埼玉園試(4年生ツツジ、3年生ツバキ)、福岡農試畑作試験地(1年生クルメツツジ)の結果である。埼玉ではいずれも異常を認めなかったが、福岡畑作では、茎葉に接触した場合、葉のかっ変・落葉を認め、750gでは樹容積が劣り、枯死株率が高まったとしている。除草効果については、埼玉では1回処理(6月3日)で翌年4月まで十分な抑草効果あり、福岡畑作では500gで高い効果あり、750gで顕著とし

ている。初年度なので、試験継続と判定された。

なお、今年度の試験結果の検討とあわせて、クルメツツジは、同じツツジ類の中であって、除草剤あるいは生育調節剤に対して、反応の敏感な種類であることが指摘された。

(3) レナシル水和剤 (丸和バイオケミカル)
：実・継 — 実用化〔苗畑露地〕ツツジ・ツバキ 植付後10～15g 年1～2回全面土壌処理、
継続 — その他の樹種および後作用について。

花木用除草剤検討の緒を開いた貴重な試験で、ようやく判定が可能となった。担当してきた三重農技センターの試験は前回で終了し、残った埼玉園試 (4年生ツツジ、3年生ツバキ)、福岡農試畑作試験地 (サツキ、クルメツツジ) の成績である。埼玉では、10～15g の年3回処理でも可視的な葉害を認めなかったが、ツバキの年2回 (連続) と、3回処理は生育が劣るとしている。福岡畑作でも、同様に可視的な葉害は認めなかったが、15g 4回 (連年) 処理ではサツキが昭和51年春からの生育が劣るようになり、クルメツツジはその後の生育も不良としている。除草効果は、埼玉では2～3回、福岡でも2回程度で十分な除草効果ありとしている。したがって、除草効果の点からみて、3回以上の処理は必要でなく、特にツバキでは1回処理が望ましいことを注意するという条件で、上記のよう

な処理法の実用化が認められた。1～2回処理の範囲であれば、露地条件下では後作用のおそれは一応ないようであるが、定植後の生育や苗畑での後作用の有無については、なお十分な観察が必要であろう。

(注) 検討会の判定においては、〔苗畑露地〕という条件規定が忘れられていたので、ここに追加する。

(4) NTN-80水和剤 (日本特殊農薬製造)
今年も実施している薬剤の初年度試験である。埼玉 (4年生ツツジ、3年生ツバキ) では異常を認めなかったが、福岡農試畑作試験地 (1年クルメツツジ) では、40、50g とも樹高生長率・樹容増大率が劣ったとしている。除草効果は埼玉の場合、6月3日処理で、翌年4月まで有効であり、2～3回処理で十分、1回ではそれより劣るとの結果になった。福岡畑作では春・初夏処理は40、50g とも効果が十分であったが、盛夏の処理では40g でやや効果不足としている。埼玉では植付後40、50g の1～3回処理で可、福岡畑作では初年度なので継続検討が必要とした。初年度なので、試験継続と判定された。

(野菜除草剤・除草資材の項
終り。生育調節剤は次回に
報告する)

財団法人日本植物調節剤研究協会編

Weed List in Asian-Pacific Area

各国の雑草の呼称名を学名と対照した雑草名鑑。学名に対し日本名、英名、ハワイ名、インドネシア名、中国名、台湾名、ソビエト名、韓国名を対照している。

A 4版 47ページ
定 価 2,000円 (送料別)

東京都港区芝愛宕町1-3 全国農村教育教会内
発行所 植 調 編 集 印 刷 事 務 所
電話 東京 (03) 436-3388番